

県営かんがい排水事業

関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ-4

守山市杉江北遺跡

守山市赤野井遺跡

守山市森川原遺跡

1985.3

滋賀県教育委員会

滋賀県文化財保護協会

序

滋賀県下の県営灌漑排水事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、ほ
易整備事業の拡大に伴ない、その件数も年々増加し、本年度は8遺
跡が対象となりました。

今回は上記の遺跡のうち整理の完了しました7遺跡を4分冊に分
けて刊行するものです。

ここに、この報告書により、広く埋蔵文化財に関する理解と文化
財愛護普及の一助にしたいと存じます。

最後になりましたが、発掘調査の円滑な実施にご理解をいただき
ました地元関係者並びに関係諸機関に対し、深く感謝申し上げます
とともに、この報告書の刊行にご協力をいただきました方々に対し
ても厚くお礼申し上げます。

昭和60年3月

滋賀県教育委員会事務局
文化部文化財保護課

課長 市原 浩

例 言

1. 本書は、かんがい排水事業に伴う守山市赤野井・山賀地区の発掘調査報告書である。
2. 事業としては、一部発掘調査に用い水分も含まれたので関連遺跡として合せて記載した。なお遺跡名は考古学的見知から判断して用いた。
3. 調査は、県農林部耕地建設課の依頼を受け県教育委員会の指導のもとに財団法人滋賀県文化財保護協会に委託してこれを実施した。
4. 現地調査にあたっては、県教育委員会文化財保護課技師木戸雅寿がこれを担当し財団法人滋賀県文化財保護協会技師小竹森直子を主任調査員に得て実施した。
5. 本書の本文は、木戸と小竹森がこれを編集・執筆した。各章の文章は第1章を小竹森、第2章を木戸と小竹森、第3章を木戸が担当した。実測等、図版については各々が分担し行った。

目 次

序 文
例 言

第1章 守山市杉江北遺跡

1. 位置と環境	1
2. 調査の経過	1
3. 調査の結果	2
イ. 試掘調査	2
ロ. 発掘調査	2
4. ま と め	11

第2章 守山市赤野井遺跡

1. 位置と環境	15
2. 調査の経過	15
3. 調査の結果	15
イ. 試掘調査	15
ロ. 発掘調査	15
4. ま と め	17

第3章 守山市森川原遺跡

1. 位置と環境	19
2. 調査の経過	19
3. 調査の結果	19
イ. 試掘調査	19
ロ. 発掘調査	19
4. ま と め	22

挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図	1
第2図	グリッド・トレンチ配置図	3
第3図	試掘調査柱状断面図(1)	4
第4図	試掘調査柱状断面図(2)	5
第5図	トレンチ1平面図・断面図	7
第6図	トレンチ2, トレンチ3平面図・断面図、トレンチ2 SD-1 遺物出土状況図	8
第7図	トレンチ4平面図・断面図	9
第8図	トレンチ5平面図・断面図、出土遺物実測図	10
第9図	トレンチ4 SD-2 遺物出土状況図	11
第10図	出土遺物実測図(1)	12
第11図	出土遺物実測図(2)	13
第12図	試掘調査柱状断面図	16
第13図	トレンチ1平面図・断面図	18
第14図	試掘調査柱状断面図	20
第15図	トレンチ1平面図・断面図	23
第16図	トレンチ2平面図・断面図	24
第17図	トレンチ3平面図・断面図	25
第18図	出土遺物実測図(1) (トレンチ1 SK1・2・3)	26
第19図	出土遺物実測図(2) (トレンチ1 SD12)	27
第20図	出土遺物実測図(3) (トレンチ3 SD1 上・中層)	28
第21図	出土遺物実測図(4) (トレンチ3 SD1 下・最下層)	29

図 版 目 次

図版1	トレンチ1全景(上)	図版6	トレンチ1全景(上)
	トレンチ5全景(下)		トレンチ1全景(下)
図版2	トレンチ2全景(上)	図版7	トレンチ2全景(上)
	トレンチ3全景(下)		トレンチ2全景(下)
図版3	トレンチ2 SD1 遺物出土状況(上)	図版8	トレンチ3全景(上)
	トレンチ4 SD2 遺物出土状況(下)		トレンチ3全景(下)
図版4	杉江北遺跡出土遺物	図版9	森川原遺跡出土遺物
図版5	トレンチ1遠景(上)	}	〃
	トレンチ1全景(下)	図版12	〃

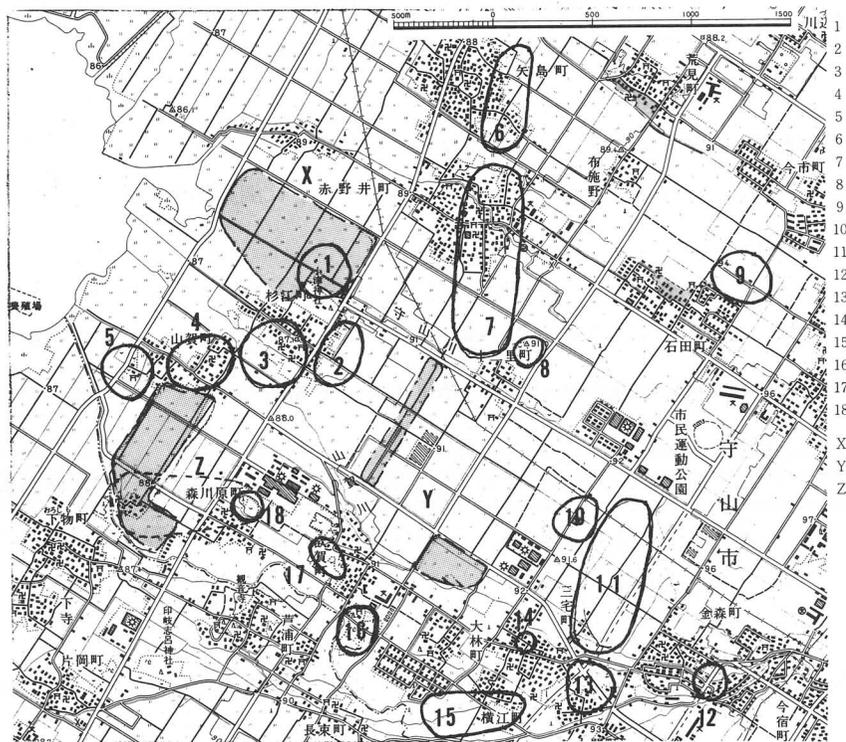
第1章 守山市杉江北遺跡

1. 位置と環境

杉江北遺跡は、守山市の西部、琵琶湖湖岸近くに立地する杉江町の集落の北側に位置する。北方の野洲川ならびに杉江町と山賀町の集落近辺を流域とする旧守山川の形成した微高地上に立地し、現在は一面水田となっている。当遺跡の東方には、弥生時代～平安時代の大集落である赤野井遺跡があり、杉江町と山賀町とそれぞれほぼ重複する様に中世集落を主とする杉江遺跡・山賀遺跡が存在する。当遺跡も、従来の調査により平安時代～中世の遺構が確認されている。また、杉江集落の北端には式内小津神社が存在する。

2. 調査の経過

杉江北遺跡を含む地域を対象に、昭和59年度県営かんがい排水工事事業が計画され、事前に発掘調査を実施することになった。



第1図 遺跡位置図

- 1 杉江北遺跡
- 2 杉江東遺跡
- 3 杉江遺跡
- 4 山賀遺跡
- 5 山賀西遺跡
- 6 寺中遺跡
- 7 赤野井遺跡
- 8 狐塚遺跡
- 9 石田遺跡
- 10 三宅北遺跡
- 11 金森西遺跡
- 12 金森遺跡
- 13 大門遺跡
- 14 薬師堂遺跡
- 15 横江遺跡
- 16 欲賀遺跡
- 17 欲賀南遺跡
- 18 森川原遺跡
- X 杉江北遺跡
- Y 赤野井遺跡
- Z 森川原遺跡

現地調査は、配管計画ルートに基づき、遺構・遺物の有無を確認することを目的としたトレンチによる試掘調査から開始した。トレンチは幅1m、長さ3mの規模とし、概ね60m間隔で計53か所設けた。掘削の深さは、工事計画深度の1mを限度とし、断面において土層堆積状況の観察・実測・写真撮影を行なった。

この試掘調査において遺構の存在が確認されたトレンチは、両端を拡張し引き続き本掘調査に入り、精査を行なった。

尚、試掘調査後は即時にトレンチを埋戻し、現状に復した。

現地調査は、昭和59年11月27日～昭和60年1月8日の約5週間を要し、のち整理作業を行なった。

3. 調査の結果

イ. 試掘調査 (第2図・第3図・第4図)

湖岸沿のA区では、基本的に耕土・灰色又は暗灰色粘土・茶灰色腐植土(スクモ層)の順で堆積しており、湖岸近辺の湿地状地帯であったことがうかがわれる。G10は、水路により攪乱を受けている。A区より約200m内陸に入ったB区の各トレンチでは、耕土下に灰色粘土が厚く堆積し、暗褐色斑の有無・密度により細分される。F区のG17～G20においてもB区と同様である。F区G29・C区G30・G48において遺物包含層・遺構面を検出し、周囲へ拡がるかと思われたが、C区の両側では再び粘土層が厚く堆積し、遺構面は検出されなかった。浜街道沿のD区・E区の各トレンチでは、耕土下において黒色ないし暗灰色粘土と灰白色粘土・灰色粘土が互層をなしており、沼沢地もしくは自然流路と推察される。

遺物は、土師質土器の磨滅した小片を少量出土したのみであり、時期を明確に決定し得るものはない。以上の結果、遺構はF区の東半およびC区の中央部にのみ存在することが判明した。

ロ. 発掘調査

試掘調査において遺構が確認されたトレンチをそれぞれ拡張し、精査を行なった。

尚、トレンチの位置・名称は第2図の通りである。以下、各トレンチごとに調査結果を記す。

トレンチ1 (第5図・第10図)

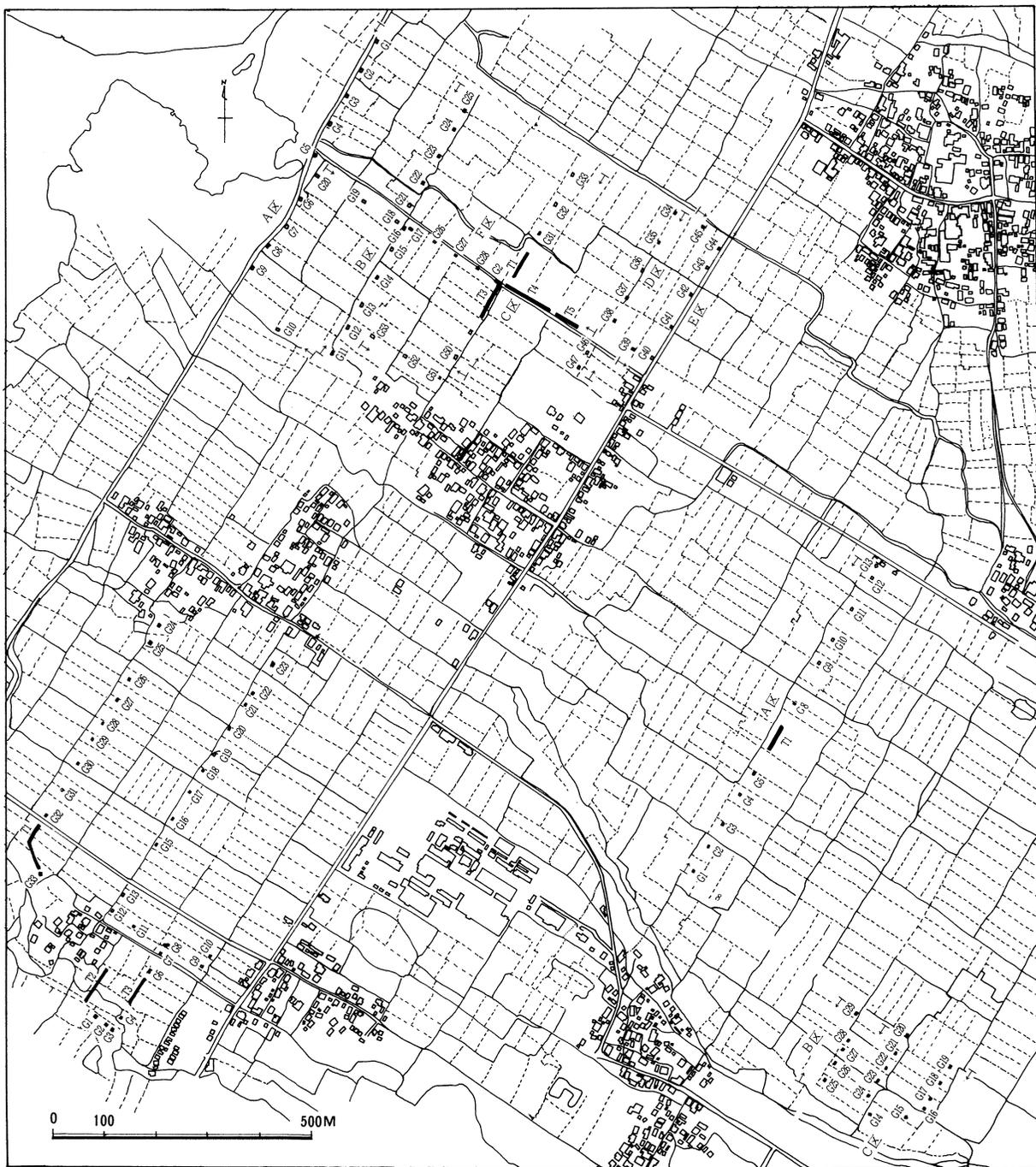
幅1m・長さ約45mの細長いトレンチのため、遺構間の関係等は明確にし得なかったが、溝・ピットを検出した。基本層序は、Ⅱ耕土・Ⅲ、Ⅸ黄灰色粘土(2層に細分)・Ⅳ黄灰色砂質土・Ⅴ暗褐色斑を若干持つ青味を帯びた黄灰色粘土・Ⅹ暗褐色斑を持つ黄褐色粘質土で、Ⅹ層がベースである。埋土は、やや青味を帯びた暗茶褐色土である。

トレンチに直交して北西―南東に延るSD5 SD6を境として南西側にピット、北東側に不定形の溝があり、SD1より北東においては遺構は検出されなかった。遺構は、いずれも5～10cm程度の浅いものであり、かなり削平を受けていると考えられる。

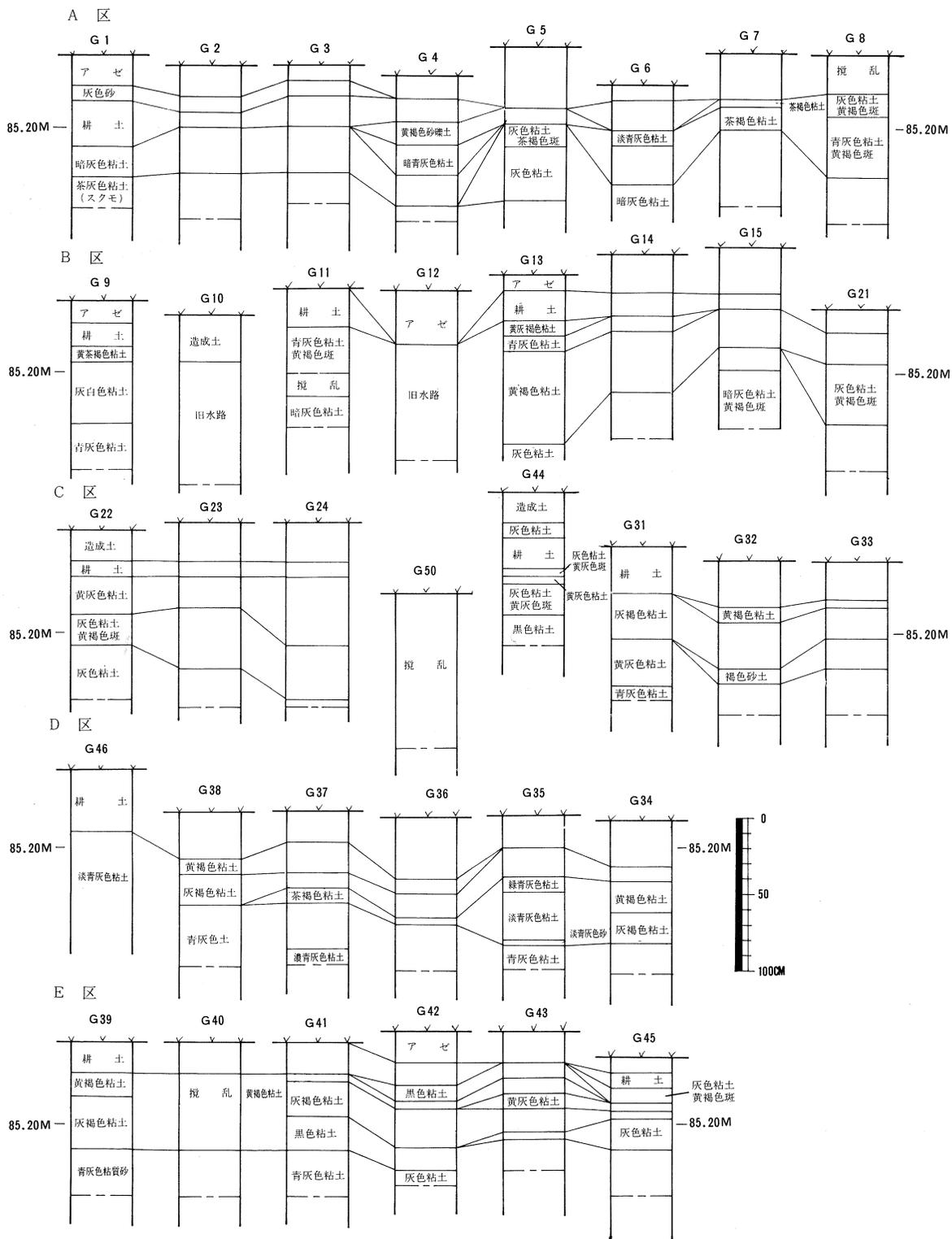
SD2

深さ10cm程度で、北西に拡ると思われる。埋土のやや青味を帯びた暗茶褐色土からは、多量の土師器・須恵器が出土した。

第10図1の土師器皿、2～4の坏は内面から口縁外面を平滑なヨコナデによって成形し、底部外面は指頭圧痕ののちナデによって成形する。4は口縁端内面をやや肥厚させており、若干先行する。口径は1が16.6cm、2・3が14.6cmを計る。5～7は須恵器である。5の坏蓋は、天井部外面が回転ヘラケズリのままの未調整であり、平偏な宝珠つまみがつく。6の皿は全体に丸味が強く、器形・法量が1の土師器皿と近似する。7の長頸壺も稜がかなり丸味を帯び不明瞭である。その他の遺構・包含層出土の遺



第2図 トレンチ・グリッド配置図



第3図 柱状断面図(1)

器椀、青磁を含んでいる。

土師質土器小皿はその形態、成形技法により細分される。第10図8・9は口縁端部に押しナデを持ち2段のヨコナデを施す形態である。10～12は口縁端部を若干外方へ突出気味で、ナデを施した口縁と底部との間に明瞭な段を形成する。13は外方へ真直ぐ開くが、やや口縁端部を肥厚させる。14～17は底部から口縁に向かってなだらかに開き、口縁端部を尖らせ気味に薄くおさめる。11・16は器高1cm弱、口径7.6cmとやや小さく、その他は器高1.3cm、口径9cm前後である。胎土は2mm大の礫を多量に含み粗い。18の大皿は底部内外面に指圧痕を残し、口縁は外反しない。19・20の黒色土器椀は内面にラセン状の暗文を施すが、口縁外面にヘラミガキは認められない。19は器高4.5cm、口径14cm、高台径4.0cm、20は器高4.5cm、口径14cmを計る。21の青磁椀の高台は、見込みに浅い段を有し、櫛状工具による文様が施されている。釉はやや黄緑色気味の灰白色で、高台外面上方までである。

トレンチ3・SD4・SD16

SD4はT字状を呈する深さ12cmの浅い溝である。SD16は幅約30cmのトレンチに直交する溝である。

SD4からは黒色土器椀と土師質土器小皿が出土した。第11図2・3は共に内面にラセン状の暗文が施され、逆三角形の高台が付く。口径15cm、高台径5.4cm、器高4.6cmを計る。1の小皿は磨滅が著しい。

SD16では、断面にかかって土師質土器小皿1点と黒色土器椀4点が重なりあって出土した。4の小皿は直線的に外方へ開く口縁上半がやや肥厚する。黒色土器椀は、いずれも外面の指圧痕が顕著で内面にはラセン状の暗文が認められる。高台は平偏な逆台形のもの(5)と、逆三角形のもの(6～8)がある。また、口縁が内彎するもの(5)と、直線的に外方へ開くもの(6～8)の二者が認められる。5・6は口径15cm、高台径5.4cm、器高5.1cmを計る。8は高台径がやや小さくて4.5cm、7は口径13.5cm、高台径4.5cm、器高4.2cmを計る。

トレンチ4 (第7図・第11図)

当トレンチの基本層序は、Ⅰ耕土・Ⅱ橙色気味の暗灰色粘土・1～2面の粘土層・Ⅴ暗褐色斑を持つ黄灰色砂質粘土(ベース)である。トレンチの南東端ではⅤ層が消え、淡青灰色粘土になる。不定形の溝、SD11とⅤ層の南東端までの約65mの間に溝・土拡・ピットを多数検出した。

SK1・SK2

隅丸長方形の平面形を持ち、浅い皿状の底面になる。淡灰色粘土の埋土には黒色土器、土師質土器の小片が数点含まれるのみである。

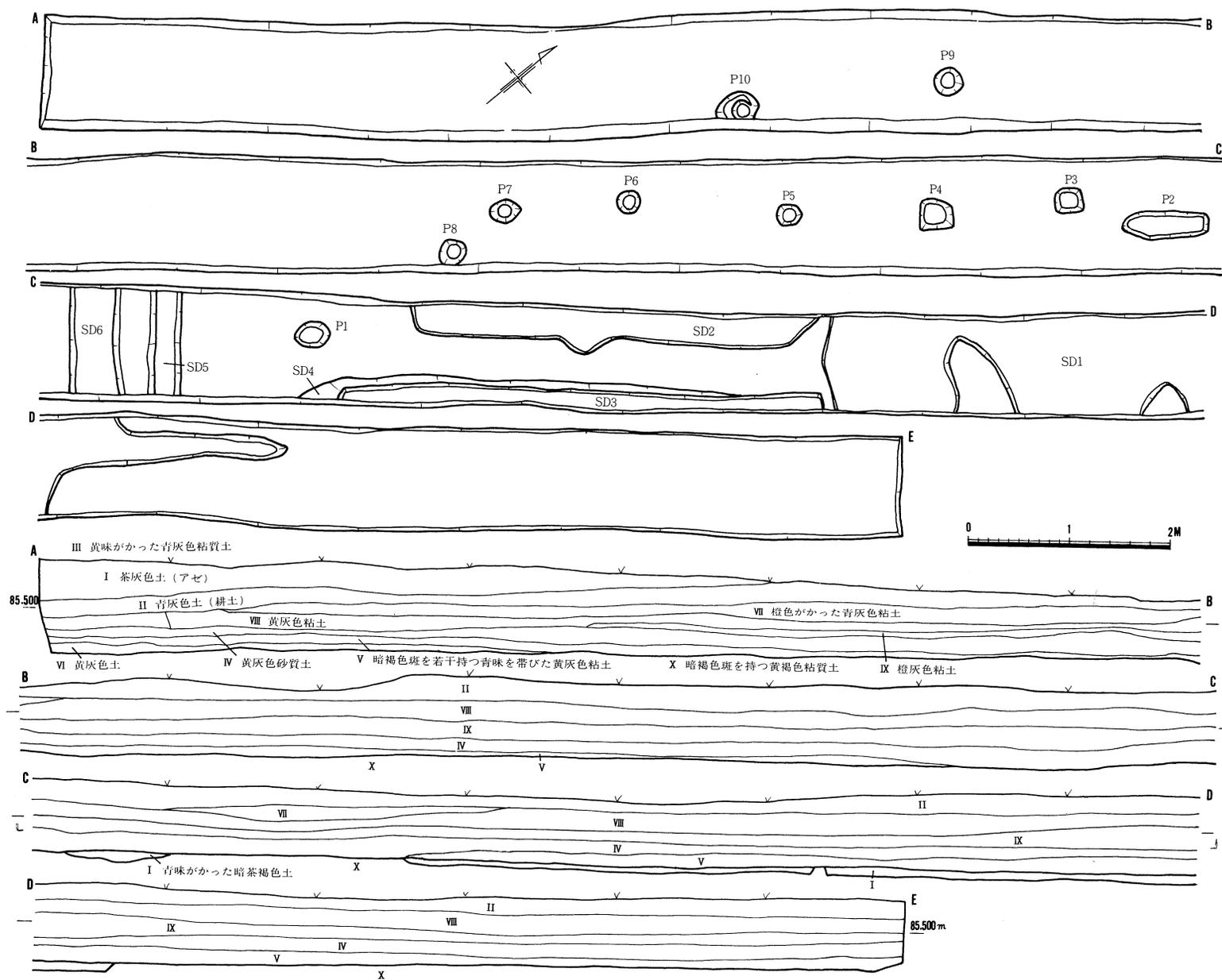
SD2

トレンチに直交し、北東一南西に延びる溝で幅約1.1m、深さ約40cmを計る。溝内には3層にわたる埋土が認められ、遺物は主として上層の埋土1から出土、15cm大の角礫・焼石も数個含まれている。(第11図)

遺物は黒色土器椀を主体とし、土師質土器小皿・大皿、高台付坏、灰釉小皿である。

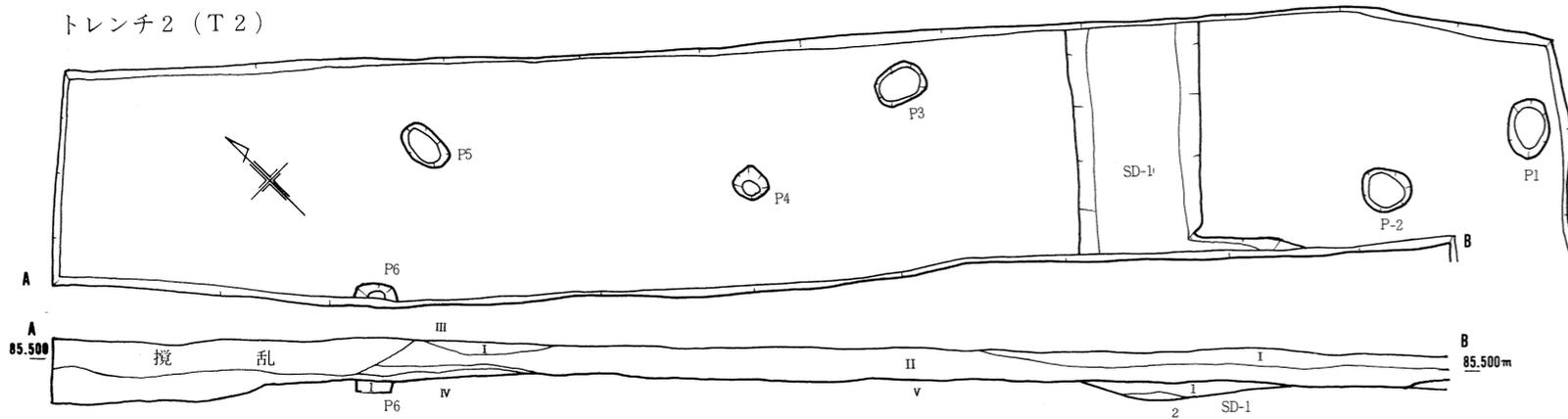
土師質土器小皿は、1段ナデで口縁端を外反させ、底部との間に段を形成するもの9～10、口縁端を丸くおさめ、内彎気味のもの12、前二者より深めで、焼成が甘くて橙灰色を呈する13の三者がある。口径・器高は9より、9.0cm・1.0cm、8.8cm・1.5cm、9.3cm・1.5cm、8.1cm・1.2cm、8.8cm・1.8cmである

トレンチ 1



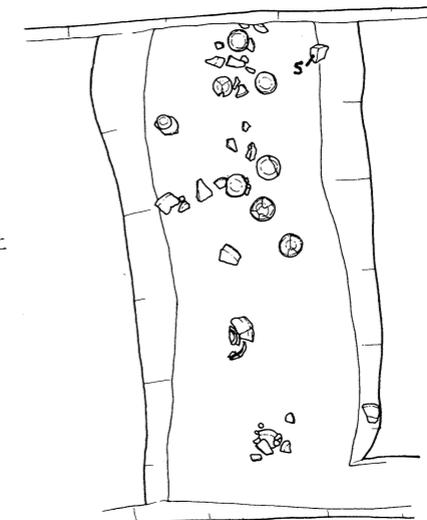
第5図 トレンチ 1 平面図・断面図

トレンチ2 (T2)

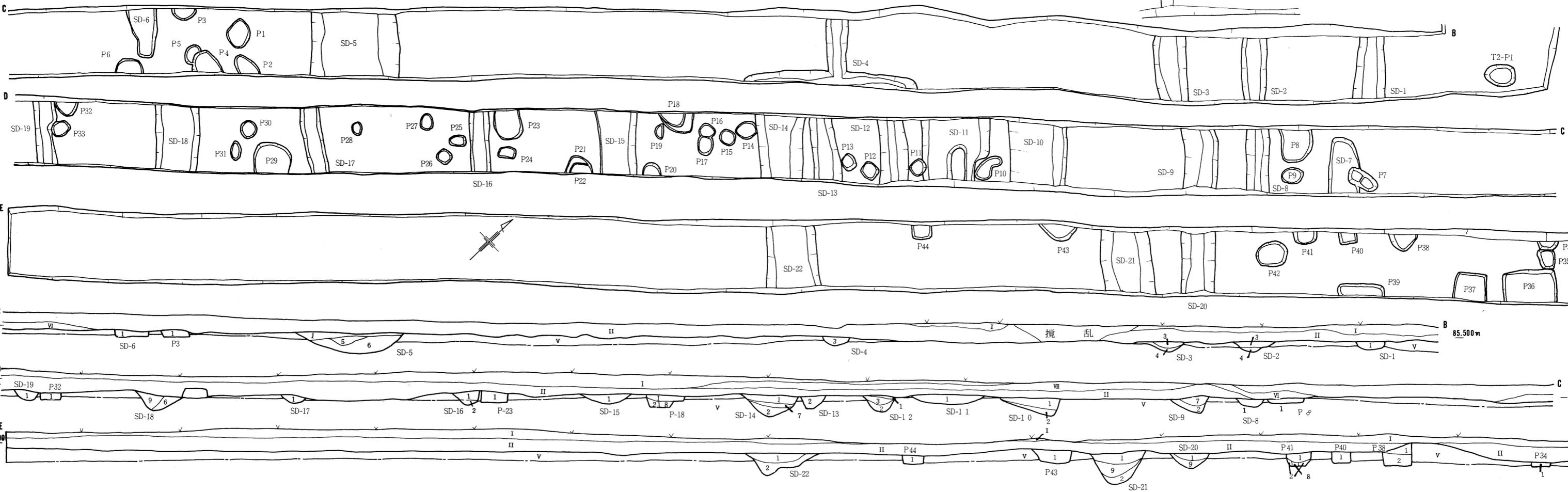


- I 青灰色土 (耕土)
- II 黄灰色粘土
- III 黄灰色粘質土
- IV 灰色砂
- V 暗褐色斑を持つ灰色砂質土 (ベース)
- VI 橙灰色粘土
- VII 橙灰色土
- 1 暗褐色斑の密度が高い灰色粘土
- 2 暗褐色斑が微小で密度の低い灰色粘土
- 3 1に類似するが砂質土
- 4 灰色砂質土
- 5 黄褐色斑を若干持つ灰色砂
- 6 黄褐色砂
- 7 灰色粘質砂土
- 8 灰色粘土
- 9 暗褐色斑を持つ強粘土

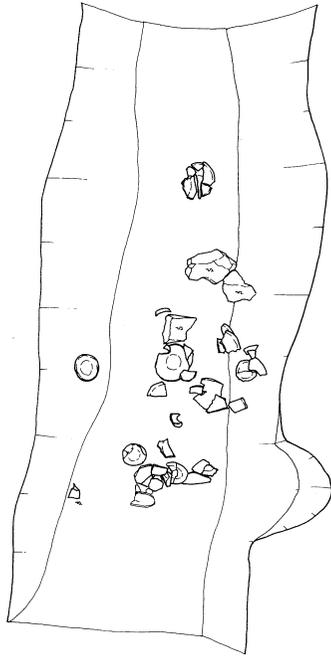
T2SD1 遺物出土状況図



トレンチ3 (T3)



第6図 トレンチ2平面図・断面図・遺物出土状況図 トレンチ3平面図・断面図



第9図 トレンチ4 SD2 遺物出土状況図

14の大皿は底部内外面に指圧痕を残し、口縁端部のみを外方へ突出させる。口径14.1cm、器高3.3cmである。15は高台付坏の高台部で、粗雑である。16の灰釉小皿は、内面中位に浅い段があり、漬卦けの釉は淡緑灰色を呈する。

SD3

幅約60cm、深さ13cmを計り、SB1を囲む様にL字状になる。埋土の暗茶褐色砂質土には、土師質土器の小片を少量含むのみである。

SD11

トレンチに直交し、その北西端は不整形である。極めて浅く、暗褐色斑を持つ青味を帯びた灰色粘土の埋土中には、SD2とほぼ同様の土師質土器、黒色土器が多量に含まれ、玉縁状口縁を持つ白磁碗(24)も1点検出された。

SB1

SD3に囲まれたP17・P22・P28・P30・P35の4間

を一辺とする掘立柱建物である。掘方は、一辺約 cmの隅丸方形をなす。ピット内には土師質土器の小片が含まれるが、時期決定はし得ない。

P46 (第11図)

径30cm、深さ15cmの円形ピットである。ピット内より出土した土師質土器大皿25は、口縁端を外反させ、内外面共、丁寧なヨコナデにより成形する。焼成は良好で、暗褐色を呈する。

トレンチ5 (第9図)

地表約40~50cm下に遺構面であるVI層暗褐色斑を持つ黄灰色砂質土が拡る。トレンチ南東端より東はVI層が消え、灰白色粘土(植物遺体を含む)が厚く堆積し、沼沢地の状況を呈している。

SD1

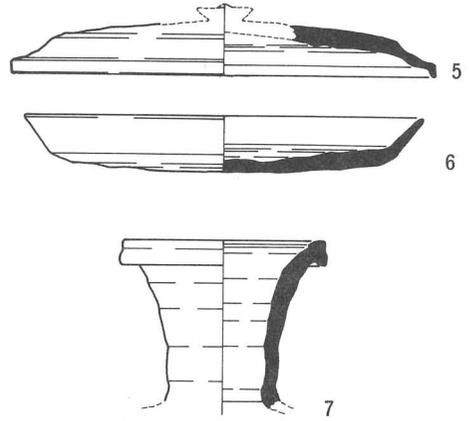
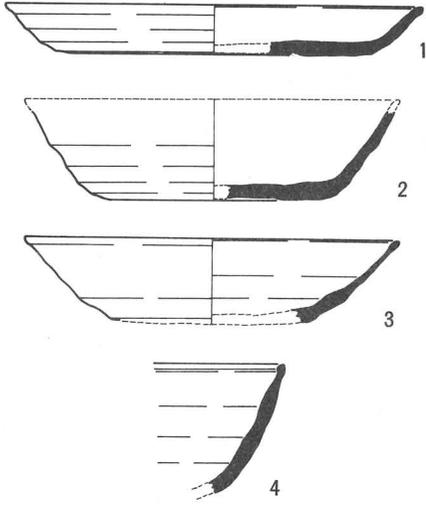
トレンチに斜行し、ほぼ南から北へ流れるSD1は、幅60~70cm、深さ約30cmで、溝内には6層の埋土が認められる。弥生時代後期終末の土器を若干出土する。

第11図1・2のやや小型の受口状口縁甕形土器は、口縁が直立気味で、1は顎部が不明瞭である。二点共、口縁・体部は無文であり、体部には縦方向のハゲが認められる。図示し得なかったが、平底の底部破片も出土している。3の高坏は、西側の肩部に横位で検出された。碗形の坏部、直線的に開がる脚部には、丁寧なヘラミガキが施されている。

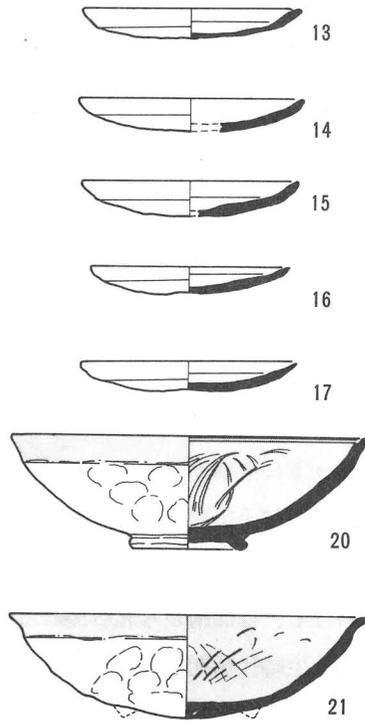
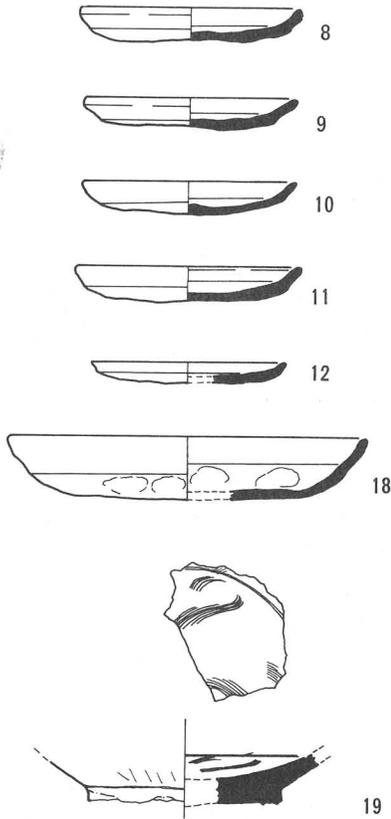
4. まとめ

当遺跡の各遺構より出土した遺物は、トレンチ1、トレンチ5以外は、古代~中世に一般的な日常雑

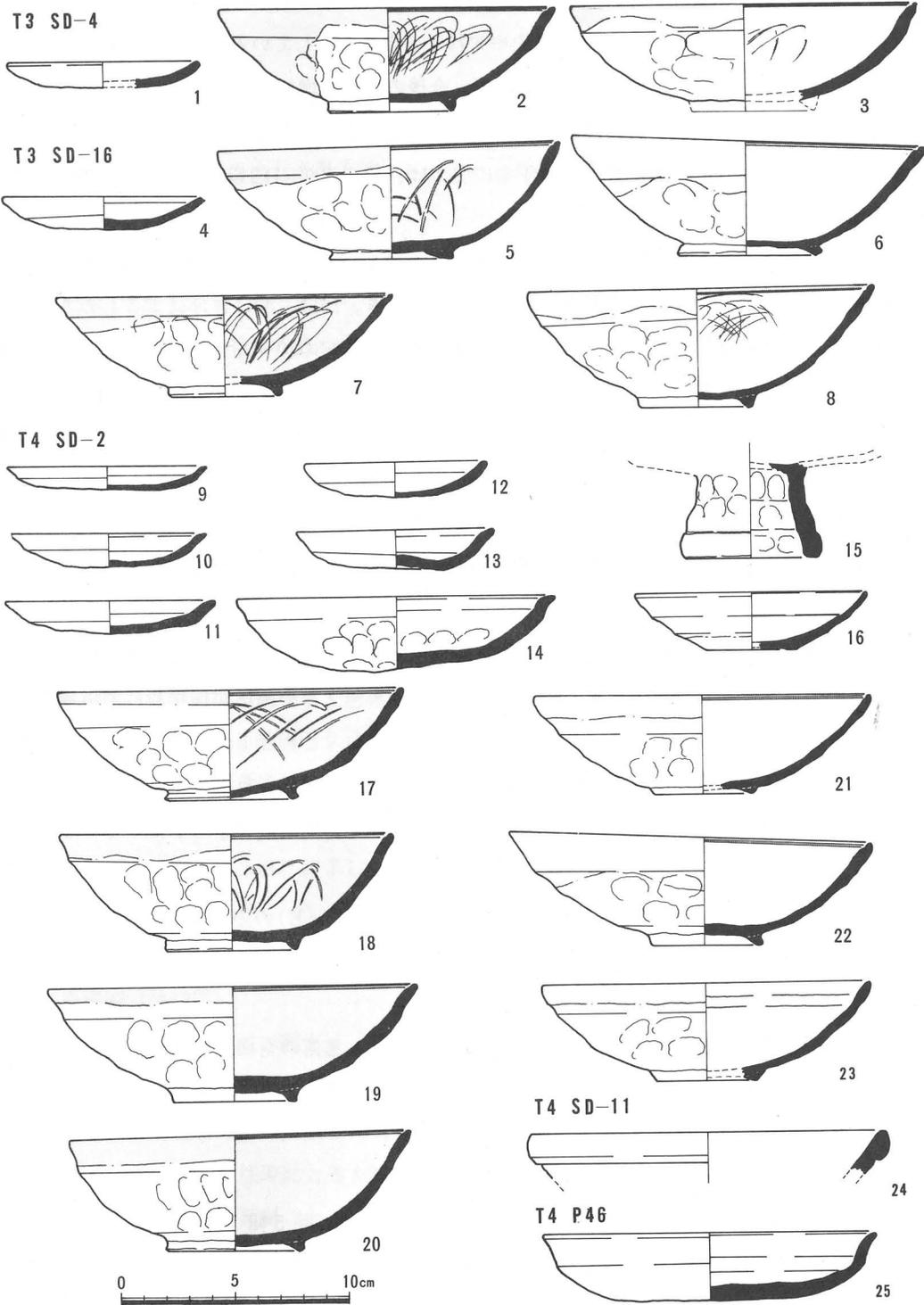
T1 SD-2



T2 SD-1



第10图 出土遺物実測図 (1)



第11図 出土遺物実測図(2)

器である。その主体となっている土師質土器、黒色土器に若干の検討を加えまとめとする。

トレンチ2・SD1の土師質土器小皿の8～13は、横田洋三氏の編年案^{註1)}に従えば、褐色系小皿のA₂タイプにほぼ相当する。二段ナデを施す8・9は、やや先行する要素を残している。口縁端を薄く尖らせる14～17タイプは、畿内、滋賀県内でもあまり見られず、今後の類例の増加を待ちたい。18の大皿も、小皿とほぼ同時期のものであろう。19・20の黒色土器は、内面の暗文手法は定着しているものの、口縁外面のヘラミガキは消失しており、大橋信弥氏の編年案^{註2)}に従えば、杉江遺跡SD2以降になろう。概ね、鎌倉時代前半の土器群であると言えよう。

トレンチ4・SD2も、概ねトレンチ2・SD1と同時期と考えられるが、やや前後の時期幅が認められる。古い様相を呈するのは、15の土師器と16の灰釉小皿である。16は、漬け卦けによるもので、折戸53号窯式に相当する。やや新しい要素を含んでいるのは、黒色土器碗の20～23である。これらは、内面の暗文手法が退化し、口径・高台径が小さくなり、器高も浅くなる。このタイプは、暗文手法が明瞭で、つくりも比較的丁寧なトレンチ3・SD3、トレンチ3 SD16等の黒色土器碗と比べると、つくりも粗雑で焼成も甘くなっている。この2つのタイプを明確に細分することは、セット関係の確かな資料がないため不可能であり、今後、資料の増加と検討が望まれる点である。

いずれにしても、当遺跡から出土したある程度一括性を指す遺物は、鎌倉時代前期を中心とする土器群と言えよう。

近年、滋賀県内においても古代～中世の遺跡の発掘調査が増加しているが、中世集落・中世土器の研究は、未だ緒についたばかりである。土器編年に関しては、黒色土器の編年が行なわれている程度で、多量に出土する土師質土器に関しては体系的なものが見られない。これは1つに、瓦器、黒色土器、土師質土器等の共存関係が明らかな一括資料が数少ないことに原因が求められよう。また、県内においても地域によりその状況が異なること、隣接地域の影響の形式的・時間的差等をふまえて考えなければならぬだろう。

遺構に関しては、弥生時代後期の溝以外は、野洲郡条理(N-34°-E)の方位を意識したものである。広義にとれば杉江遺跡として一括されようが、狭義の意味の杉江北遺跡は、現杉江集落とほぼ重複する杉江遺跡とは分けて考えるべきであろう。

従来の調査も、今回の調査同様、狭長なトレンチ調査のため、集落の全様を把握することは困難であるが、周辺遺跡との関連もふまえた上で、当地域の中世集落・中世土器研究の進展の一助となれば幸いである。

註1) 横田洋三「出土土師皿編年試案」『平安京跡研究調査報告』第5輯

註2) 大橋信弥「“近江型”黒色土器再考」『手原遺跡発掘調査報告書』

第2章 守山市赤野井遺跡

1. 位置と環境

赤野井遺跡は、守山市の南西部に位置し、野洲川によって形成された広大な湖成三角洲上を流れる支流である旧河道によってはさまれた微高地上に営まれた集落跡である。また、その集落は歴史としても古く、『日本書紀』安閑天皇二年(535)に見られる七倉と、それを守衛する犬養部の記載から、赤野井を犬養部の旧地とし周辺地域を大和朝廷の直轄地と推定されており、現存赤野井周辺のみが他の地域と違い南北・東西の地割を残している所からみても、赤野井の集落が大化の改新の後施行された律令体制下の条理制に先行する条理を持った古い集落であることがうかがい知ることができる。そして今回調査が行われたのはその南北条理の残る赤野井町の南、15条12里に当る十二里町の南東部分にあたる。

2. 調査の経過

調査は原則的に遺構・遺物の有無を確認することを目的として、調査対象地とされる工事路線予定地内に幅1mで、長さ3mのグリットを地形の現状に合わせて等間隔に設置して実施した。また深さは掘削によって破壊を受ける1mを限界として、それより下の部分においては基本的に調査は実施しなかった。そしてその結果に基づいて工事に支障のない部分と発掘調査が必要な箇所とに分け、発掘調査が必要な箇所においては、遺跡が途切れるまで調査区を拡張して行き、工事に支障のない部分についてはその場で工事関係者に引き渡した。具体的な調査方法としては、調査対象地が現水田と農道との間の巾1mの部分に限られていたため調査に対する制約を受けたが、発掘用重機によって深さ1mまでを徐々に下げ精査し、図と写真によって層位と遺構・遺物の有無を記録し、随時現状に復しながら実施した。現地調査は1月21日から始め2月2日に終了し引き続き次の調査地に移動した。

3. 調査の結果

イ. 試掘調査(第12図)

A・B・Cの3区において、幅1m・長さ3mのトレンチを計29か所設けた。

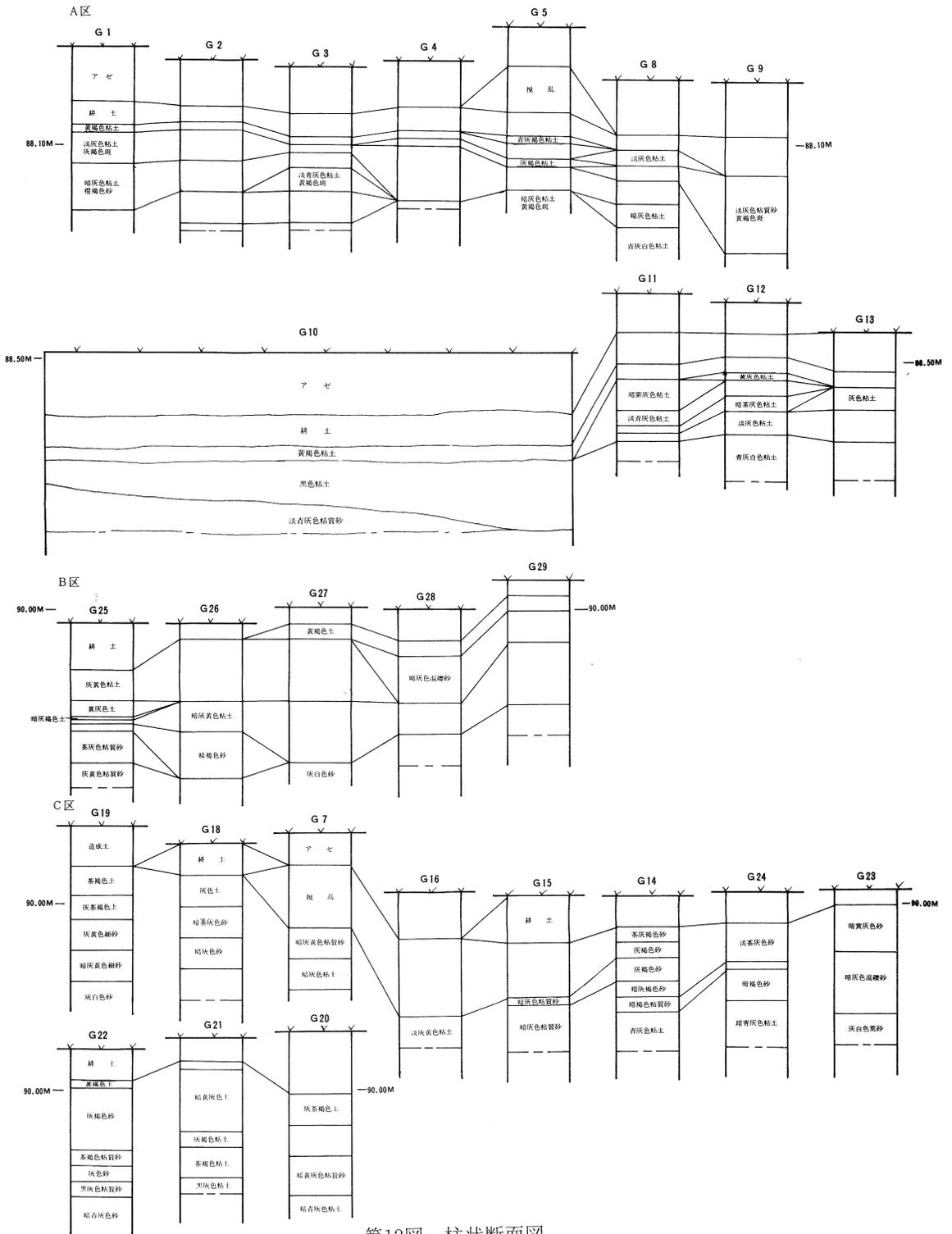
A区南西半では、黄褐色粘土・淡灰色粘土・暗灰色粘土等の粘土層が厚く堆積する。G6(トレンチ1)において、黄褐色斑を持つ淡灰色粘質砂層上に遺構を検出した。G10では、植物遺体を多量に含む黒色粘土層が検出され、自然流路と考えられる。先の遺構面はG10を境として消失する。

B区・C区では、砂層が数層にわたって堆積している状況が見られる。G15～G17の様に上層部を、ほ場整備によって破壊されている地点もあるが、この2区においては、旧河道の氾濫原であった状況がうかがわれる。

ロ. 発掘調査

試掘調査の結果、当調査対象地域では唯一1ヶ所で遺構が確認された。

SD1……トレンチを東西に横切る浅い溝である。幅は20cm弱、深さは10cm弱と浅い小溝である。

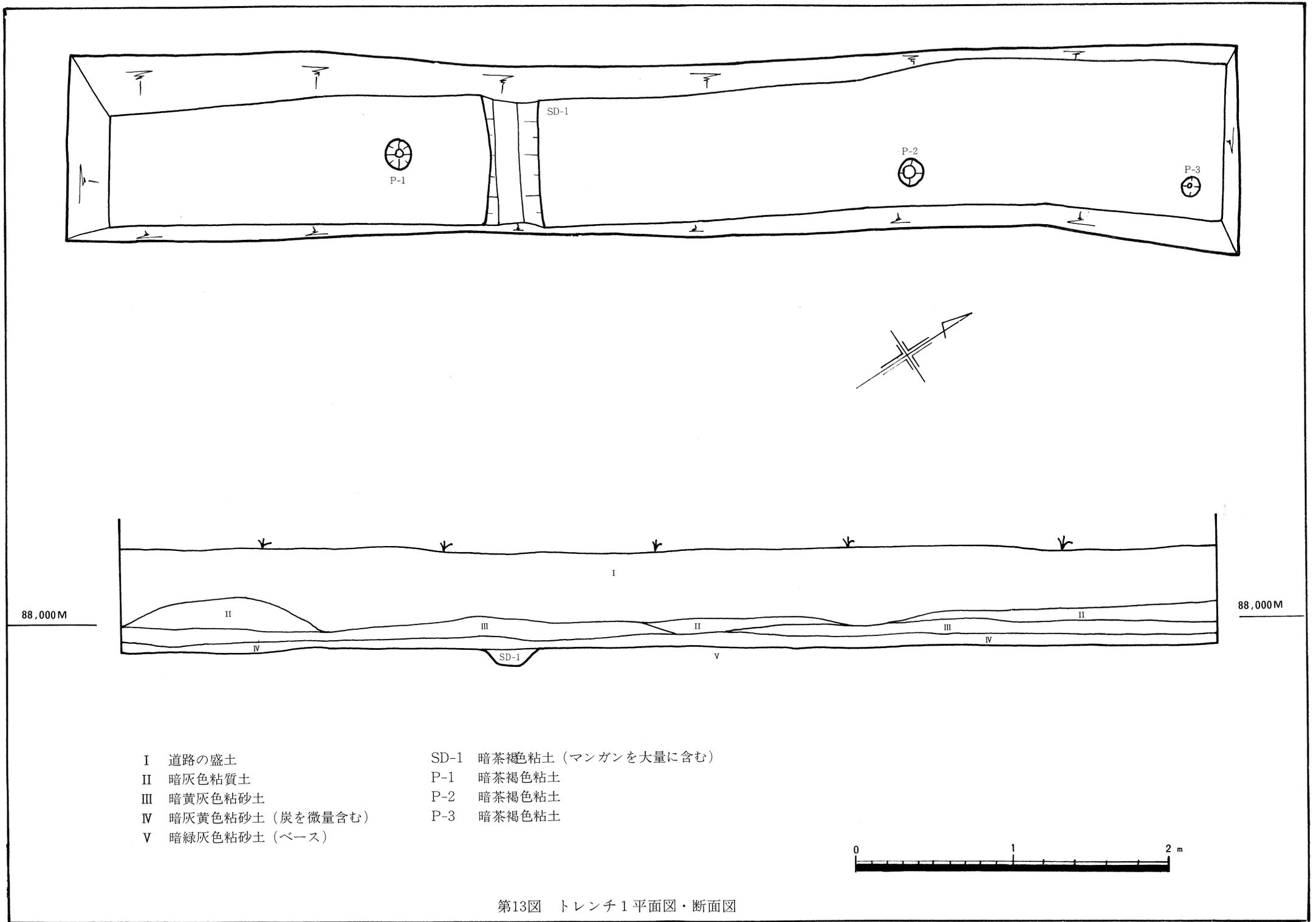


第12図 柱状断面図

SP1～3……径15cm内外で、小さく浅い柱穴である。密度が薄い、調査範囲が限定されていることもあり、どのような遺構によって構成されているか、その性格を判断することは不可能である。

4. まとめ

今回の調査では遺物もごく微量であったが、従来より遺跡が確認されていなかった当地でも一部分ではあるが、古代～中世と思われる何らかの遺構が存在しているものと考えられる。これが、赤野井遺跡の南限を示しているのか、また新たな遺跡かは今後の調査を持つところである。



第3章 守山市森川原遺跡

1. 位置と環境

森川原遺跡は守山市の南西部、ほぼ草津市と境をなす地に位置する。森川原遺跡の立地は、古来から栗太郡と野洲郡の境をなし、多数の湧泉を水源として金ヶ森・欲賀・山賀の各町を流れて湖岸に出る境川によって形成された河岸段丘と氾濫による堆積によって形成された自然堤防上の微高地上に存る。従来この遺跡は時代を古墳時代から平安時代として認識されており、その分布範囲も現浜街道より東に広がる集落跡を中心とした部分をその遺跡の中心とされており、今回対象地には広がる可能性がないのではないかと考えられていた。

2. 調査の経過

調査は同様原則的に遺構・遺物の有無を確認することを目的として、地形に合わせてグリットを設定し試掘調査を実施した。その記録と成果をもとにして、工事に支障のない部分と発掘調査が必要な部分とに分け、発掘調査が必要な箇所においては遺構が途切れるまで調査区を拡張してゆき、工事に支障のない部分においては工事関係者にその旨引き渡した。具体的な調査も前項と同様、発掘用重機によって耕土をめぐり、その後深さ1mまでの間で精査し図と写真によって層位と遺構・遺物の全ての記録保存を行った。その後、随時現状に復しながら、現地調査を2月4日から始め2月23日に終了し、そのあと報告書作成の為に整理調査を開始した。

3. 調査の結果

イ. 試掘調査

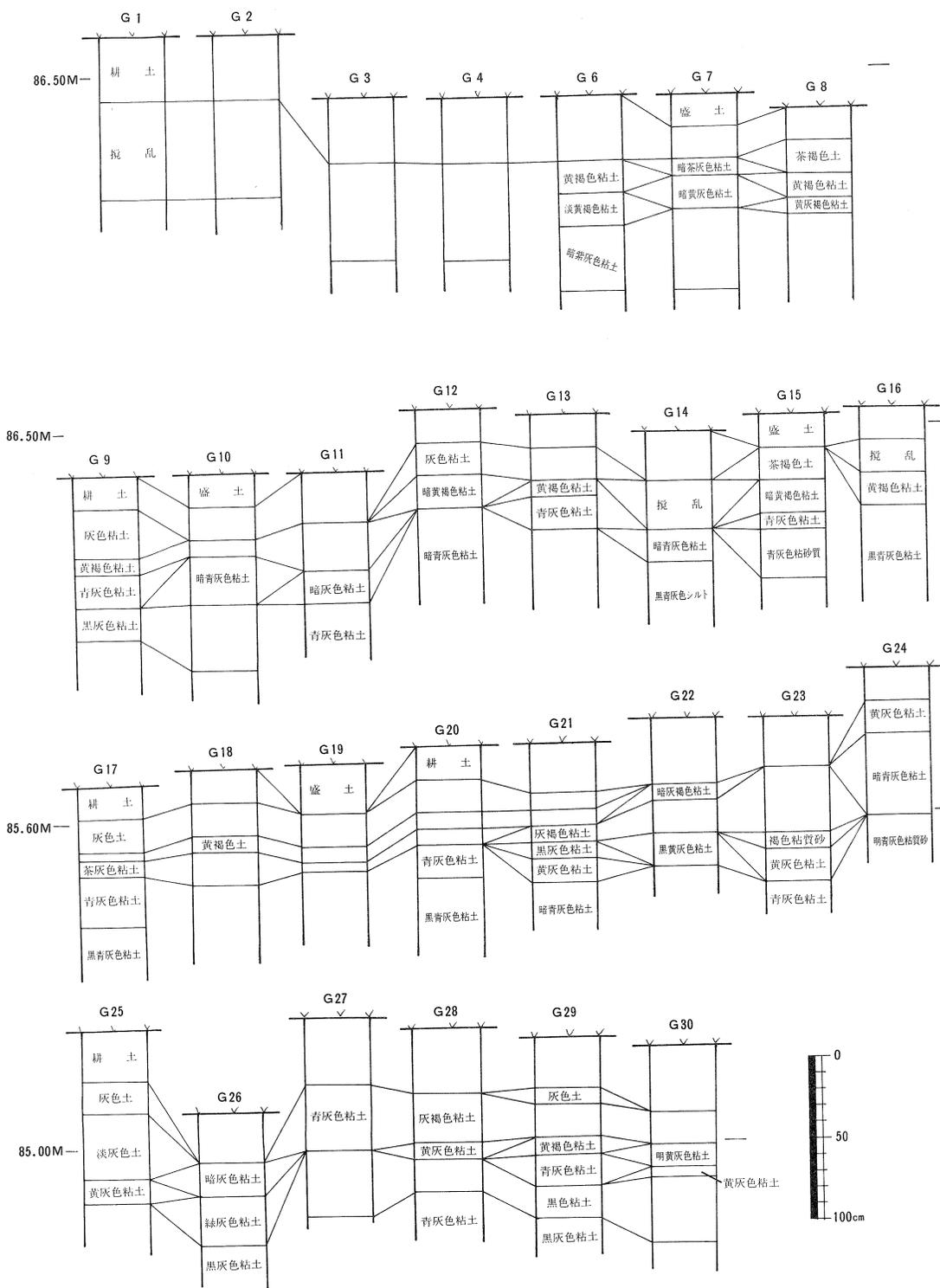
試掘調査のグリットはほぼ水田1枚おきに1ヶ所を基準にして、可能性のある部分においては随時、その間にも設けることとした。各グリットの断面土層に関しては図14を参照していただきたいが、ここでは大まかな区ごとの基本的な層位と層序関係を記しておきたい。G1からG4においてはほ場整備によって造られた農道によってその地下1m以上犯されており攪乱されていた。G5は遺構・遺物が確認された。G6～G13においては水田・耕作土より下はベースとなる青灰色系の粘土層まで3層から4層が基本層位になっている。G14～G20、G21～G25においても耕作土下青灰色粘土層まで3層から5層まで水気の多い黄褐・茶灰・灰色系等の色の粘質の強い粘土層が続く。G26～G32も同様である。これらのことより、これらの地区には遺跡が存在しないことが明らかになった。

ロ. 発掘調査

発掘調査では試掘調査で遺跡が確認された3ヶ所において、それぞれトレンチに拡張して調査を実施した。以下に各トレンチごとに得られた成果をとりまとめてそれを記す。

トレンチ1 (第15・18・19図)

トレンチ1では溝が12本、土壌が3、柱穴が19検出された。以下に若干の説明を加える。



第14图 柱状断面图

SD1～11……全て東西方向に走る溝で幅は30cm～50cm、深さ約15cmと狭まって浅い溝である。遺物も少なく、図化出来るものは皆無であった。

SD12……幅5m、深さ50cmの南北方向の溝で段掘状を呈している。層位は単純な3層の平行堆積であった。遺物はコンテナ1箱をこえる量であったが図化できるものにとどめた。(第19図) 器種は高環と丸底がそのほとんどを占め、甕・壺類は少なかったように思われる。小型丸底(1・2) 高環(3・4・6・7・8) 須恵器高環脚部(5) 甕(9・10・11) 壺(12)、また瓶(13) が1点、手づくね(15) が1点、製塩土器(14)片が3点出土した。

SK1……両肩がやや円弧を描くところから円形の土壇の一部と思われる。深さは70cmとやや他の遺構に比べて深い、層位は4層でレンズ状堆積をなしている。遺物は図化できたものは少量であった。

(第18図) 須恵器環蓋摘み(1) 同環蓋(2) 同甕(3) 同直口壺(4) 同高環脚部(5) 同有蓋高環(6) 等の須恵器を中心に土師器甕(7・8)、また他に土製錘(9) も出土している。

SK2……径3m位の円形土壇の肩部の一部がひっかかったものと思われる。出土した遺物は土師器甕(10) 同壺(11) 等がある。

SK3……不整形の土壇で辺りのごく一部を掘った。出土遺物は高環と丸底片が主体を占めていた。小型丸底(13) 高環(14～17) 等である。

SP……柱穴は全て掘立柱建物群を構成している1部と思われるがトレンチの幅が、狭いということもあってどのような規模のものか察することはできなかった。柱穴の径は20cm～50cm台で、深さは総じて40cm～50cm位の間におさまる。遺物は図化できるものがなかったがP1・5・6・8・14等で土師片、須恵器が出土している。

トレンチ2 (第16図)

トレンチ2では溝が22本、土壇1基、柱穴が5検出された。

SD1～22……全て30cm～50cm位の幅をもつ東西方向の溝がある。深さは全て20cm位と浅い。遺物はSD1・3・4・5・8・9・12・15・16等で須恵器・古式土師片が出土。

SK1……不整形土壇の半部を掘った。径は1m20cm、深さは20cmで遺物は土師器片が2片出土している。

P1～5……径は20cm～60cmとさまざまで、深さも10cm前後と浅い。

トレンチ3 (第17・20・21図)

トレンチ3では溝が3、土壇が4、柱穴が52検出できた。

SD1……幅5m、深さ80cmで段掘状にテラスを持つ東西軸の大溝である。層位は14層に分層できるが基本的には4層と思われる。このトレンチ内でも特にこの溝に遺物が集中して出土している。主な遺物は以下のごとくである。(第20・21図)

上層—須恵器高環脚部(1～3) 同甕口縁(4・5) 同環蓋環身(6～8)

中層—土師器高環口縁(9・10) 同脚部分(11～15) 同小型鉢(16・17) 同甕(18～20)

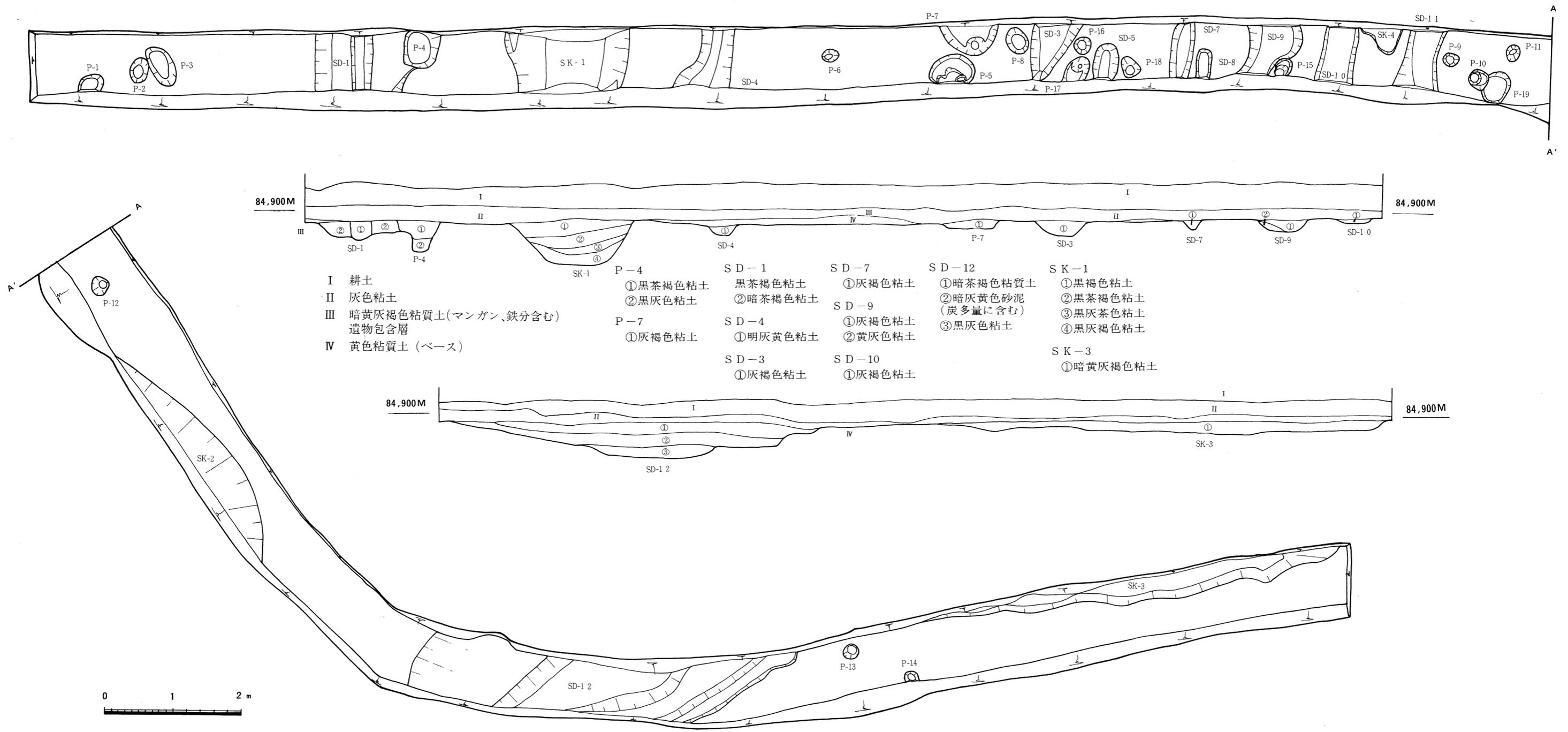
下層—土師器壺口縁(1～3) 同高環脚部(4～7) 同甕口縁(8～11) 同器台(12)

最下層—土師器高環脚部(13・14) 同甕口縁(15～19) 同小形丸底(20・21) 同壺口縁(22)

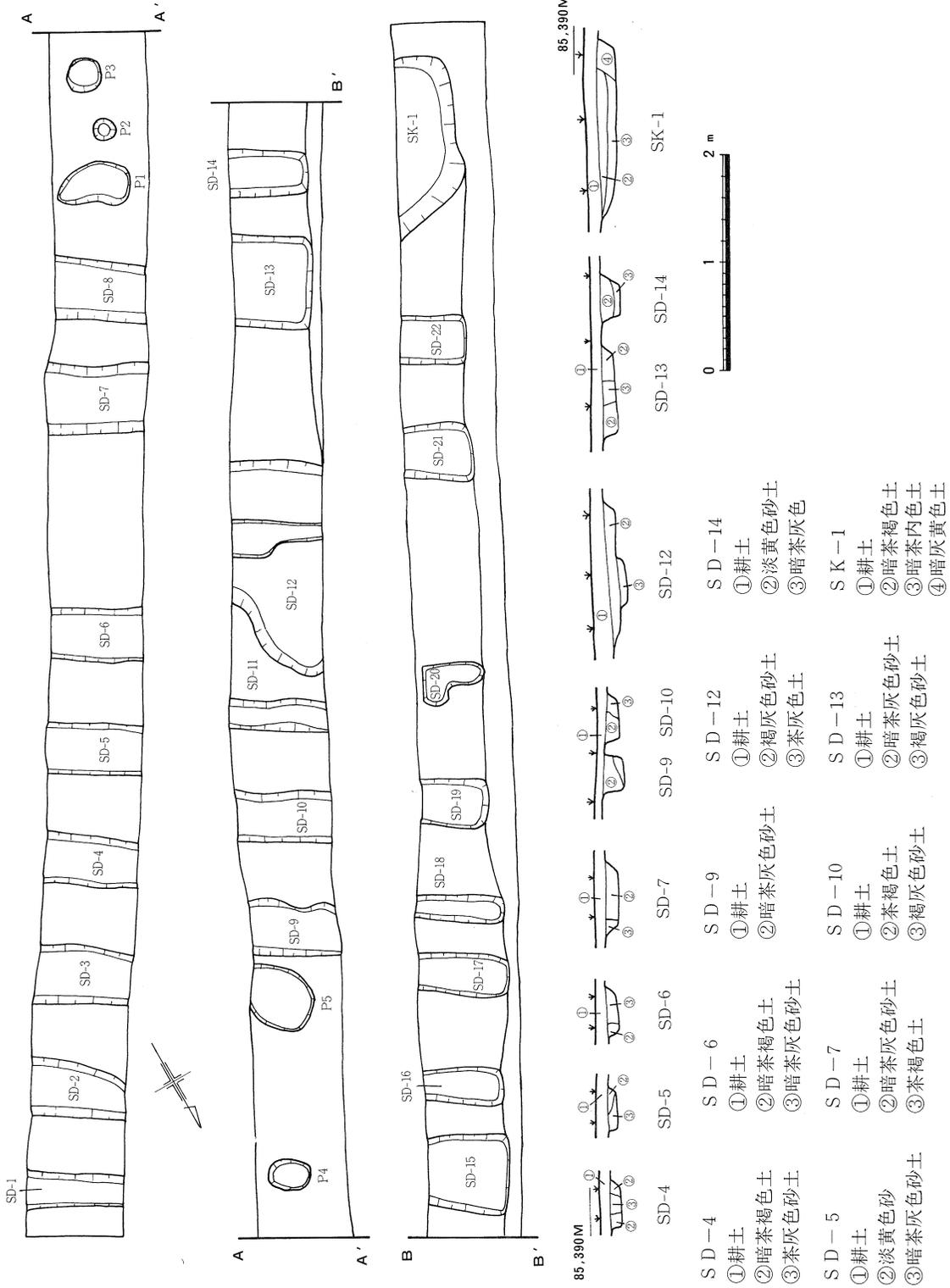
4. ま と め

以上のことより今回の調査のまとめとして成果と問題点をあげ、結びとしたい。まず遺跡の年代であるが、出土した遺物からして上限を受口状口縁を有する甕の終り近いころとし、下限は須恵器よりTK-47を下るものがないことから6世紀初頃までにおさまるものと考えられ、古式土師器に須恵器が出現する布留式新相に当るものと思われる。そしてこの年代がそのまま森川原遺跡の評価につながる。従来より滋賀県下では掘立柱建物の出現は7世紀を逆のぼらないとされてきたが、近年守山市を中心とする地域で5世紀末～6世紀初頭まで逆のぼる集落が明らかになりつつある。直線で森川原より200m離れた横江遺跡でも同様にTK47の須恵器と土師器が柱穴より共伴し、さらに土壙から森川原でも出土している大阪湾系の製塩土器をも共出している。(近藤義郎先生に御教示をいただいた。)以上のことからいち早くこの地に畿内の新しい風が入ってきたものと云え、大きな価値をそこにあたえることができる。

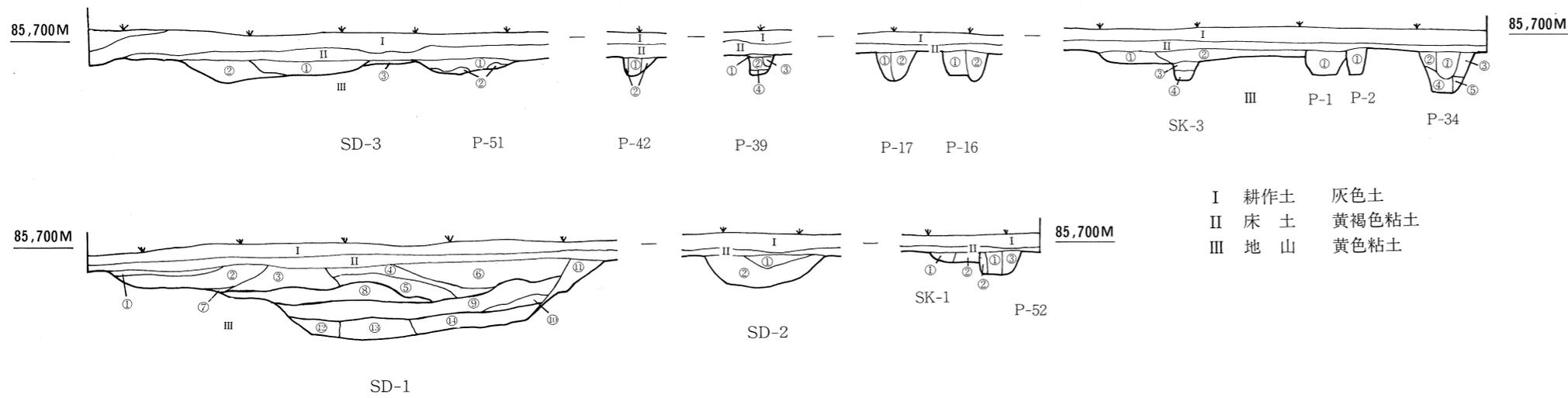
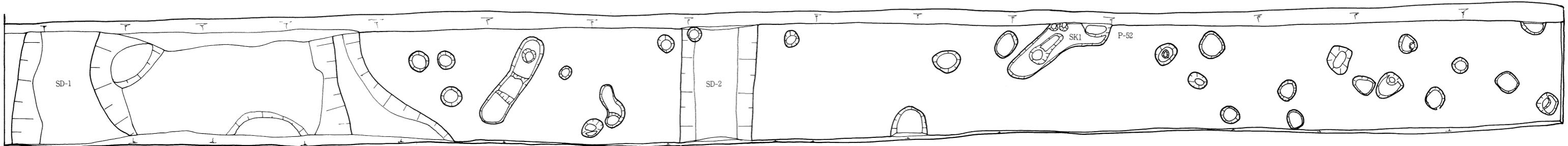
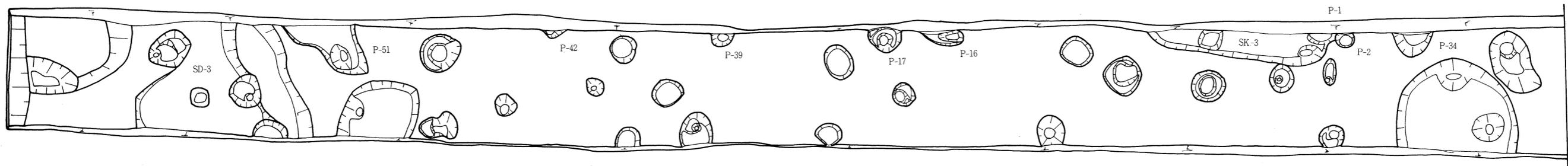
森川原遺跡の分布は台帳によれば現浜街道より東の部分にしか分布していないといわれていたが今回の調査で遺跡はもっと広範囲に分布していることが明らかになった。しかしながら、試掘調査の結果から考えてみても、10年ほど以前に実施されたほ場整備による農道と水田面のカットにより少なからず破壊されている可能性がでてきたことは森川原と守山の歴史を再構成する上でも残念なことではあるが、それはさておいても今後、部分的に見いだされる森川原遺跡の発見で、より多い成果を得られるようその魁として本報告を閉じる。



第15図 トレンチ1平面図・断面図

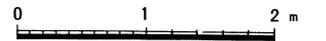


第16図 トレンチ 2 平面図・断面図

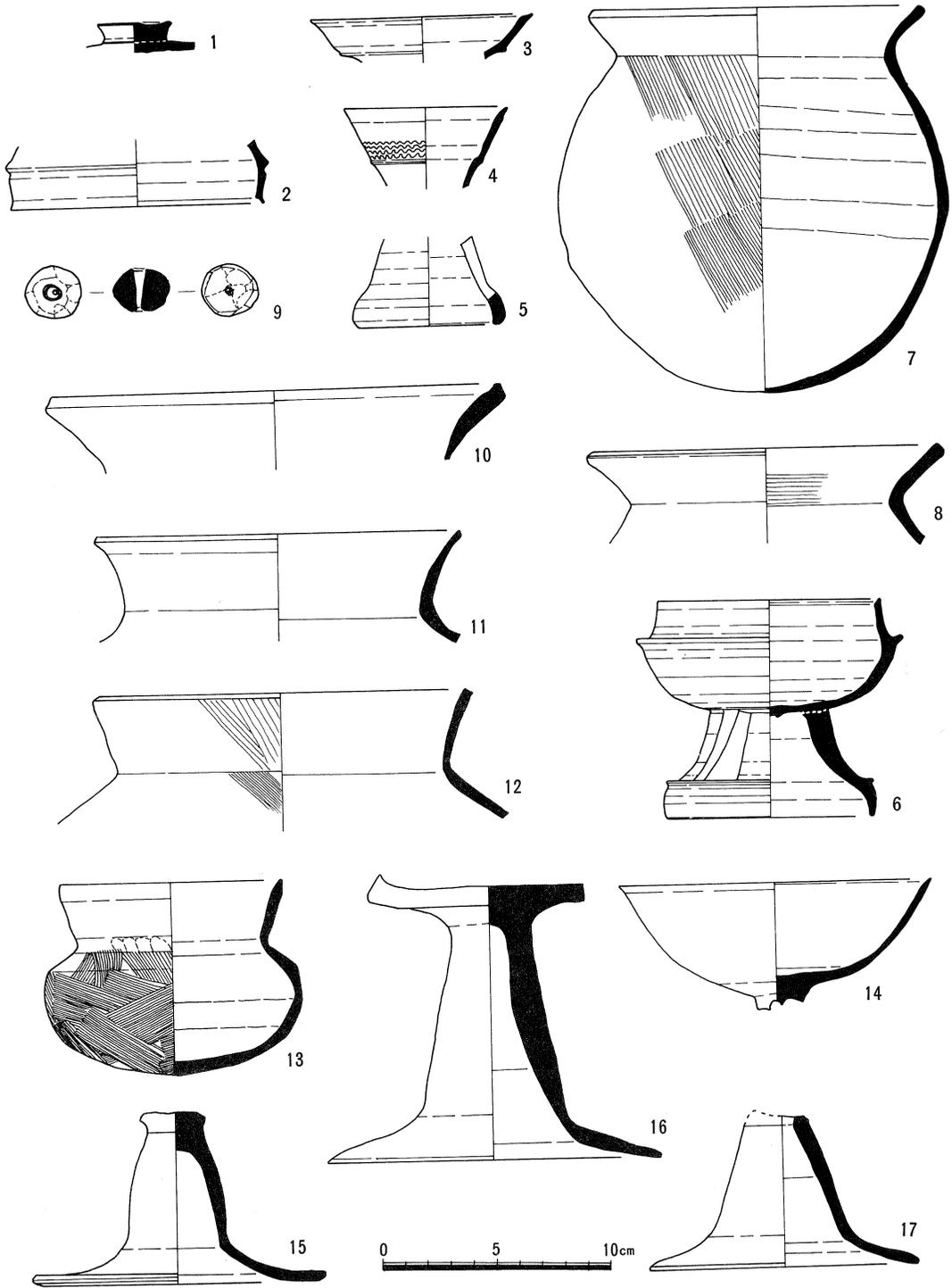


- | | | | |
|----------|---------|----------|---------|
| SD-3 | P-17 | P-34 | SD-1 |
| ①暗灰褐色粘土 | ①灰黄色粘土 | ①暗茶灰色粘土 | ①暗茶褐色泥砂 |
| ②灰褐色粘土 | ②黄灰色粘土 | ②茶灰色粘土 | ②暗灰褐色粘土 |
| ③黒褐色粘土 | P-16 | ③黒灰褐色粘土 | ②茶褐色泥砂 |
| P-51 | ①灰黄色粘土 | ④黒灰褐色粘土 | ④暗灰褐色砂泥 |
| ①灰黄色粘土 | ②黄灰色粘土 | ⑤灰黄褐色粘土 | ⑤暗褐色泥砂 |
| ②黄色土ブロック | SK-3 | SD-2 | ⑥灰褐色砂泥 |
| P-42 | ①黄灰褐色粘土 | ①暗茶灰褐色粘土 | ⑦茶灰色粘土 |
| ①暗灰褐色粘土 | ②黒褐色泥砂 | ②暗茶灰色粘土 | ⑧黒茶灰色粘土 |
| ②灰黄色粘土 | ③暗黄灰色粘土 | SK-1 | ⑨黒黄灰色粘土 |
| P-39 | ④黄灰色粘土 | ①灰褐色粘土 | ⑩黒灰色粘土 |
| ①黄灰色粘土 | SK-3 内 | ②黒褐色粘土 | (炭を含む) |
| ②灰褐色粘土 | P-1 | P-52 | ⑪茶灰褐色粘土 |
| ③暗黄灰色粘砂 | ①黒灰褐色粘土 | ①茶灰褐色粘土 | ⑫黒灰褐色粘土 |
| ④灰褐色粘土 | P-2 | ②茶灰色粘土 | ⑬暗緑灰色粘砂 |
| | ①暗茶褐色粘土 | ③暗茶褐色粘土 | ⑭黒灰褐色粘土 |

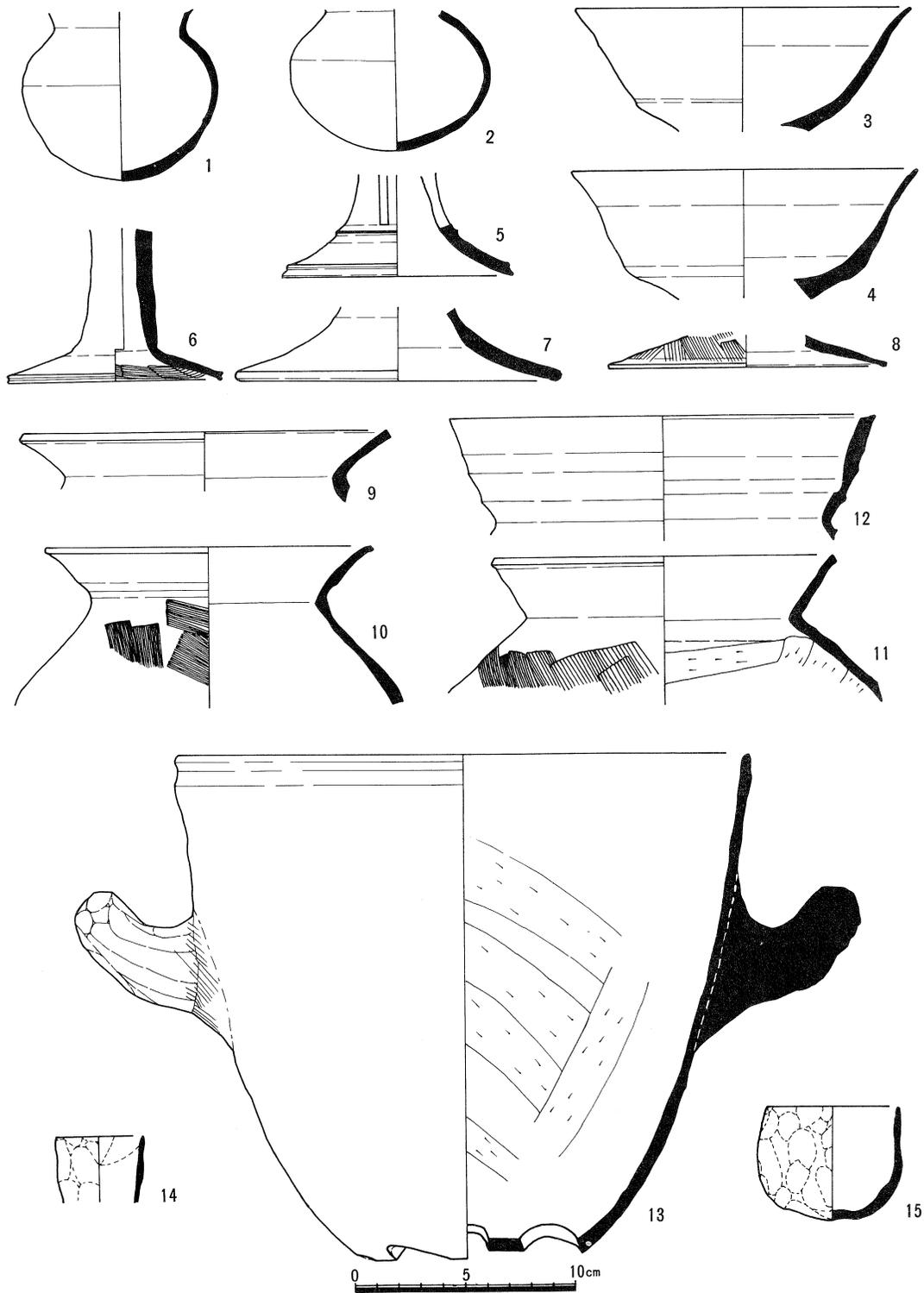
I 耕作土 灰色土
 II 床土 黄褐色粘土
 III 地山 黄色粘土



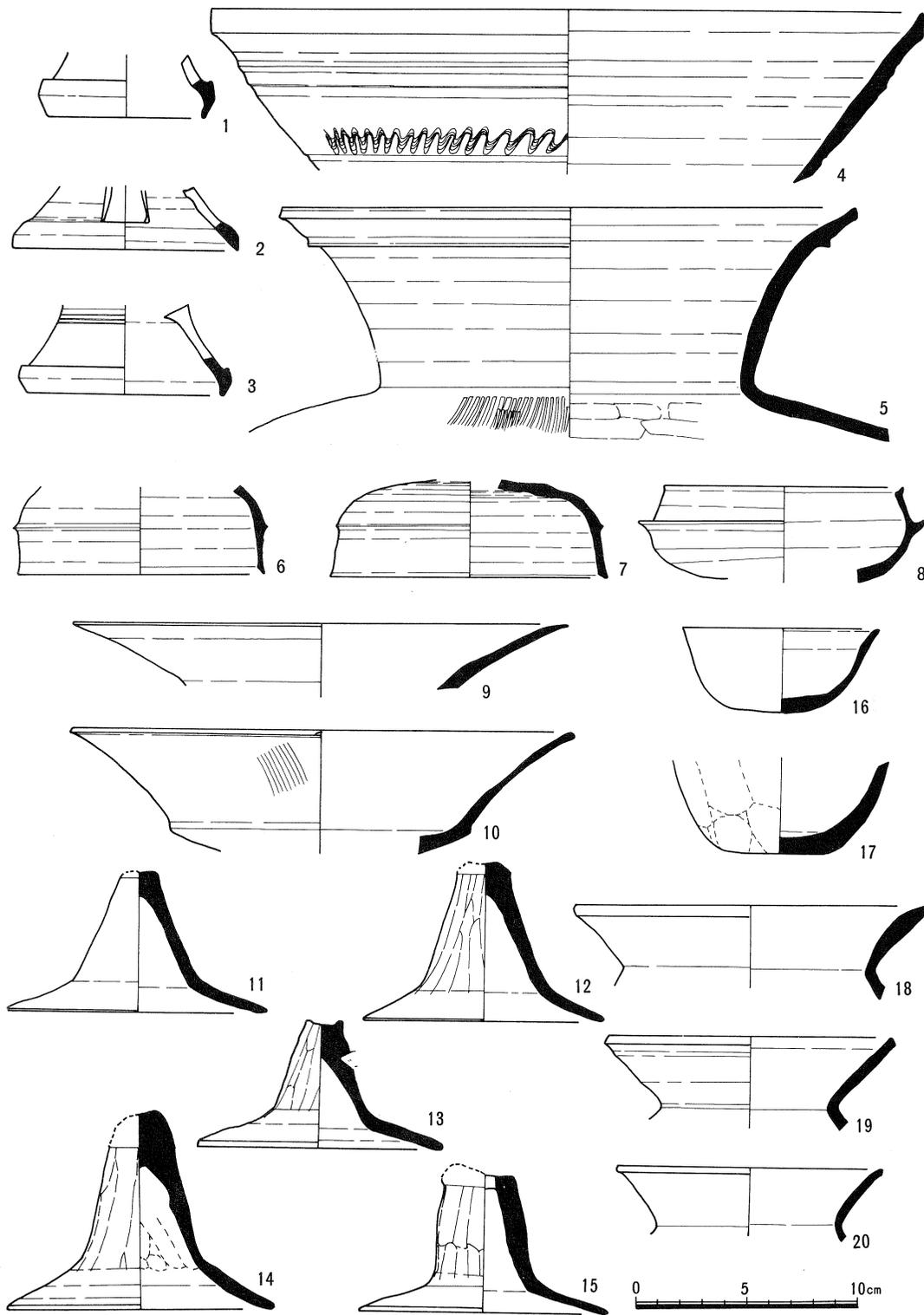
第17図 トレンチ3平面図・断面図



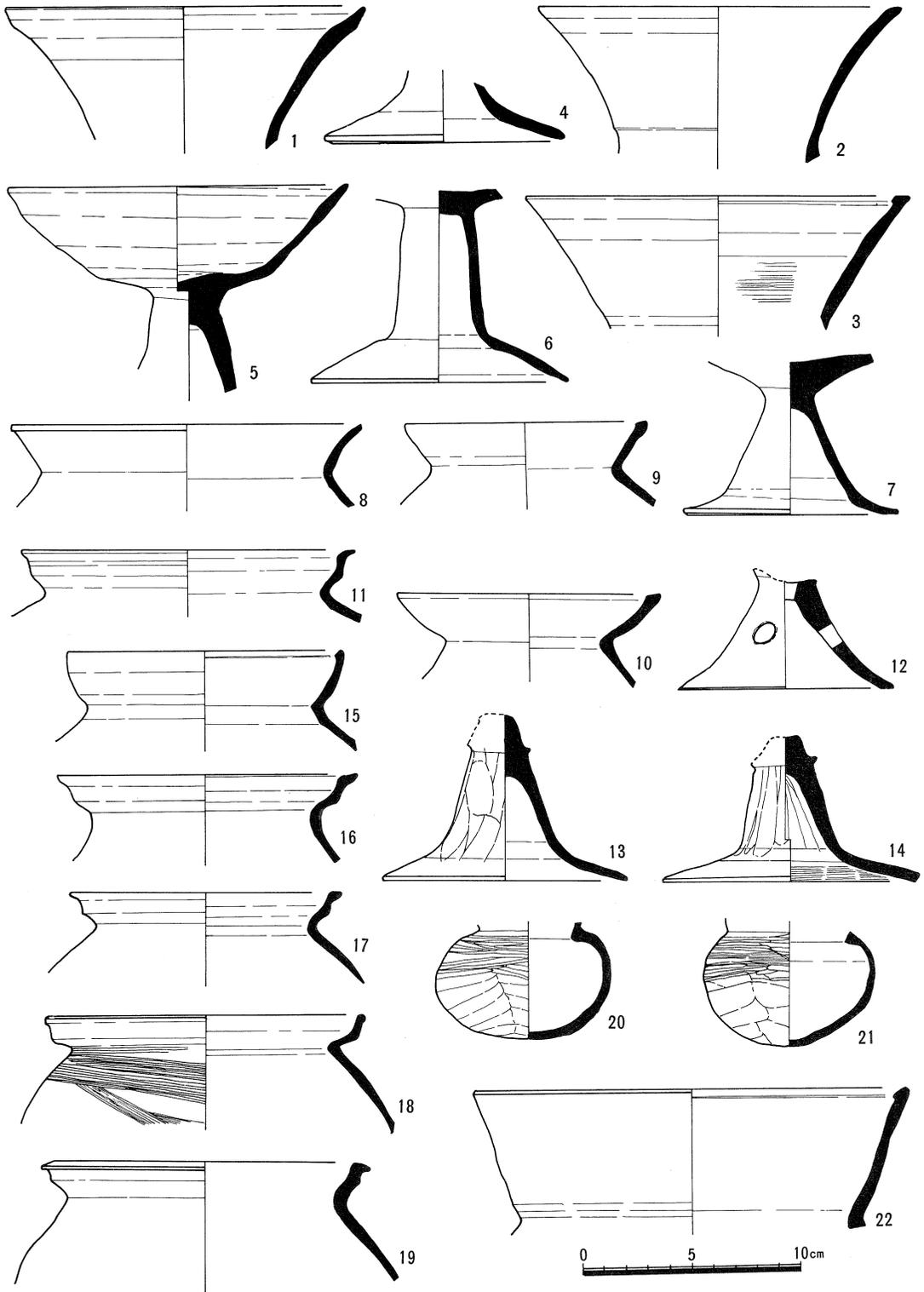
第18図 出土遺物実測図(1) (トレンチ1 SK1・2・3)



第19図 出土遺物実測図 (2) (トレンチ1 S D-12)



第20図 出土遺物実測図 (3) (トレンチ3 S D-1・中層)

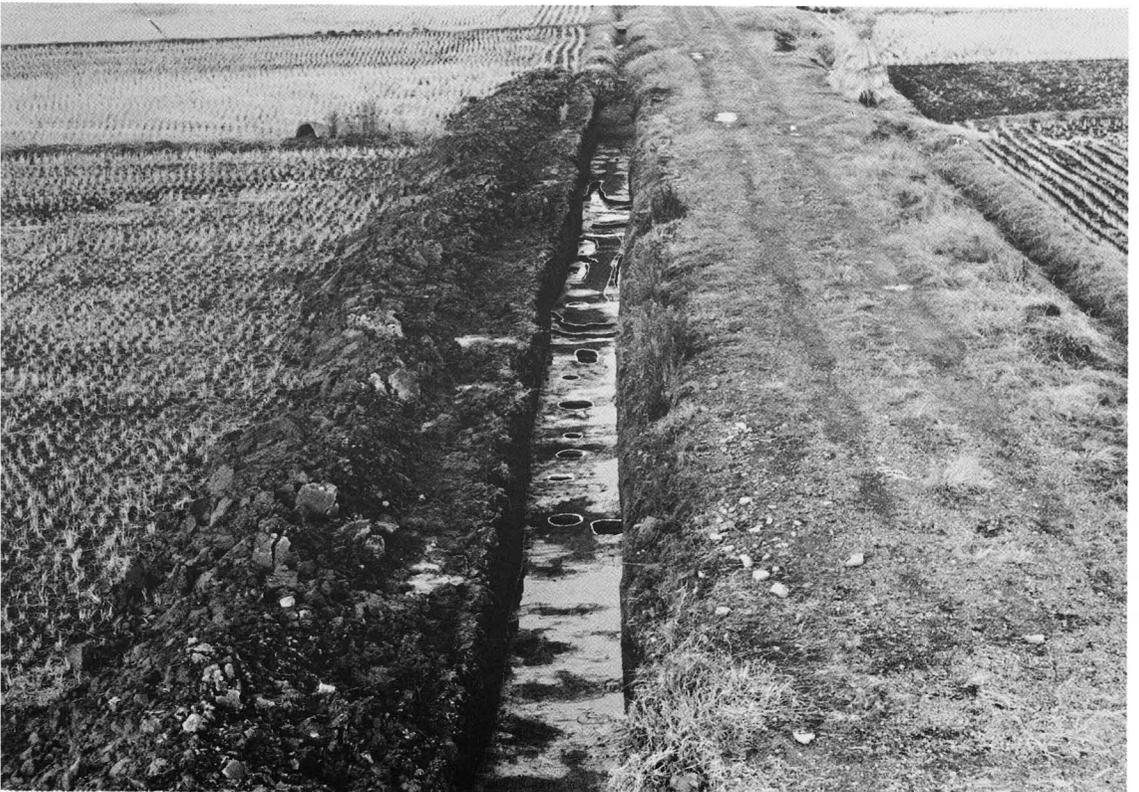


第21図 出土遺物実測図(4) (トレンチ3 SD-1下・最下層)

版 圖



トレンチ1 全景（南西より）



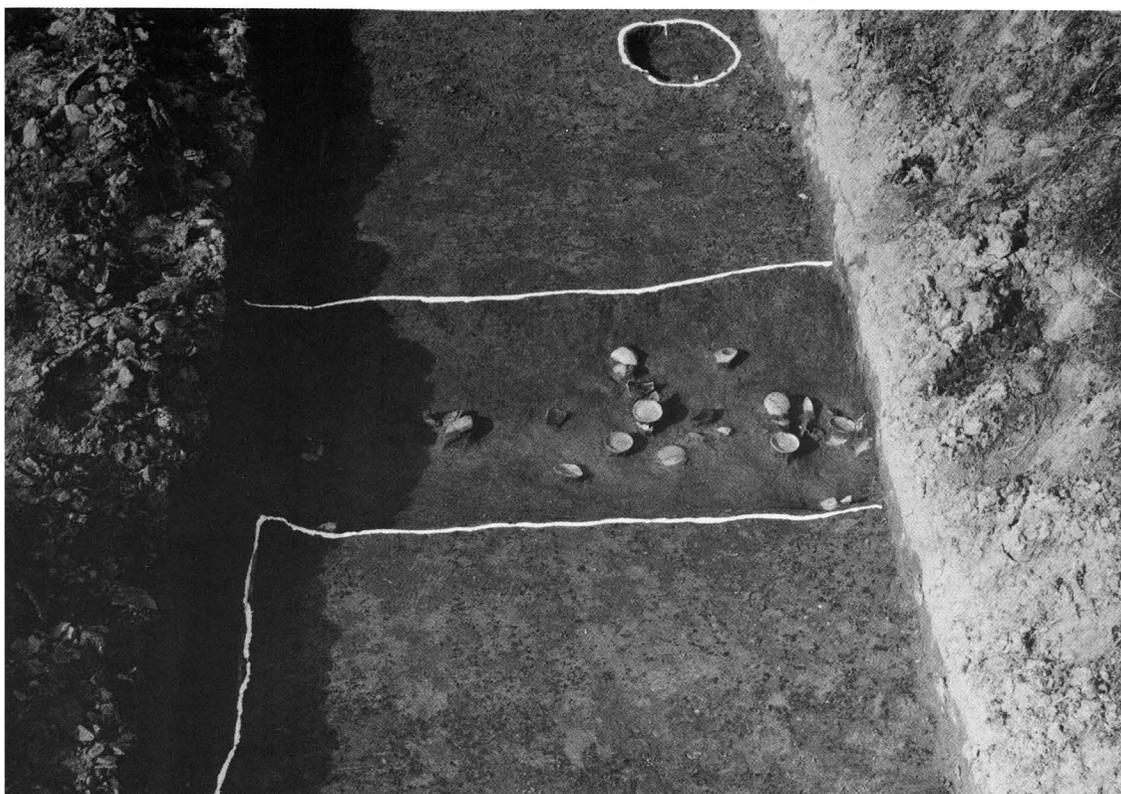
トレンチ5 全景（北東より）



トレンチ2 全景（北西より）



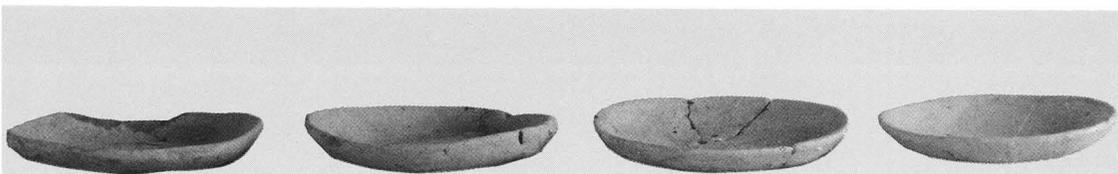
トレンチ3 全景（南西より）



トレンチ2 SD1 遺物出土状況（北西より）



トレンチ4 SD2 遺物出土状況（北東より）



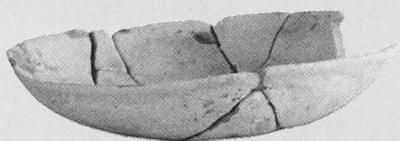
トレンチ2 SD1 出土遺物(1)



トレンチ2 SD1 出土遺物(2)



トレンチ4 SD2 出土遺物(1)



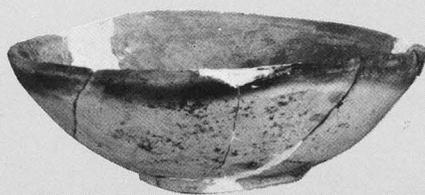
(2)

(4)

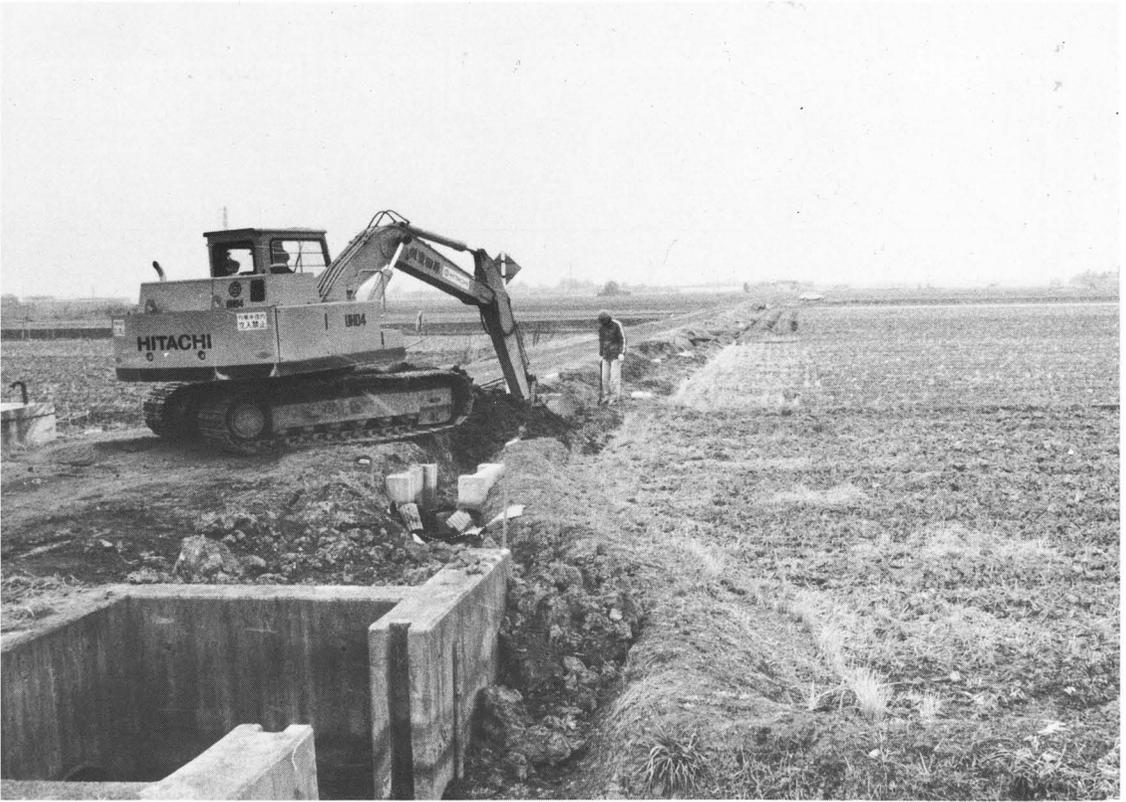


(3)

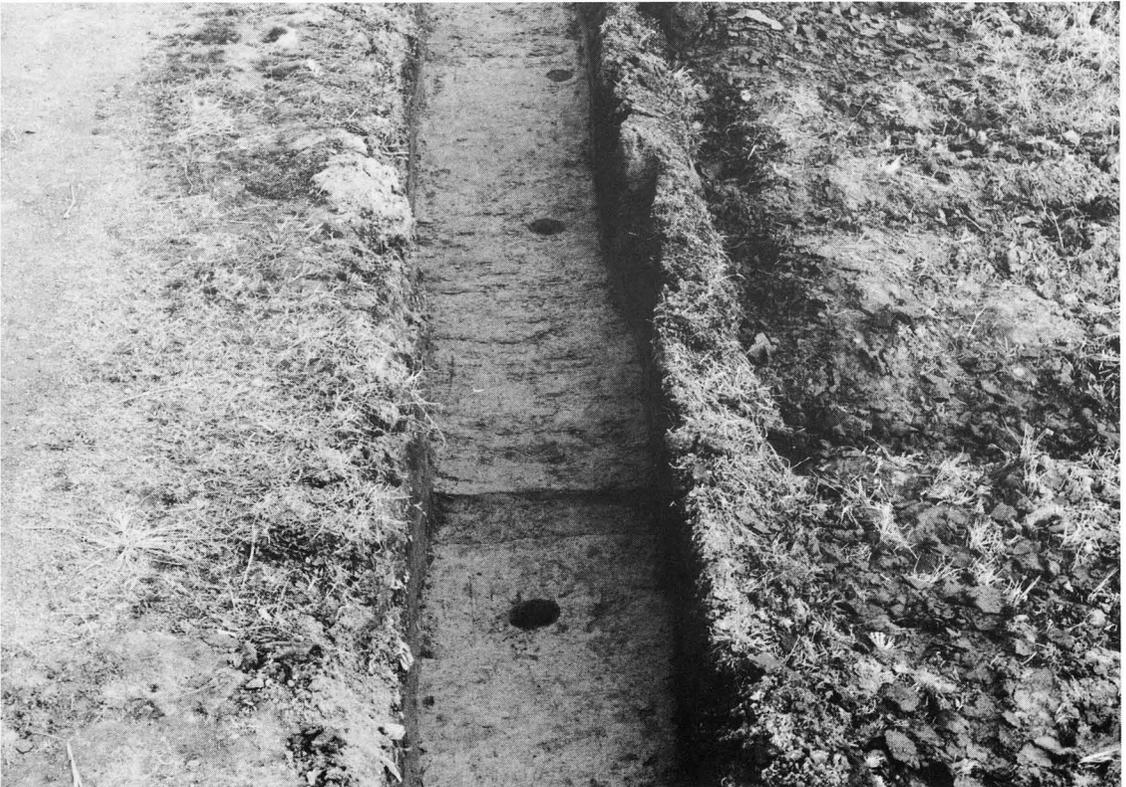
(5)



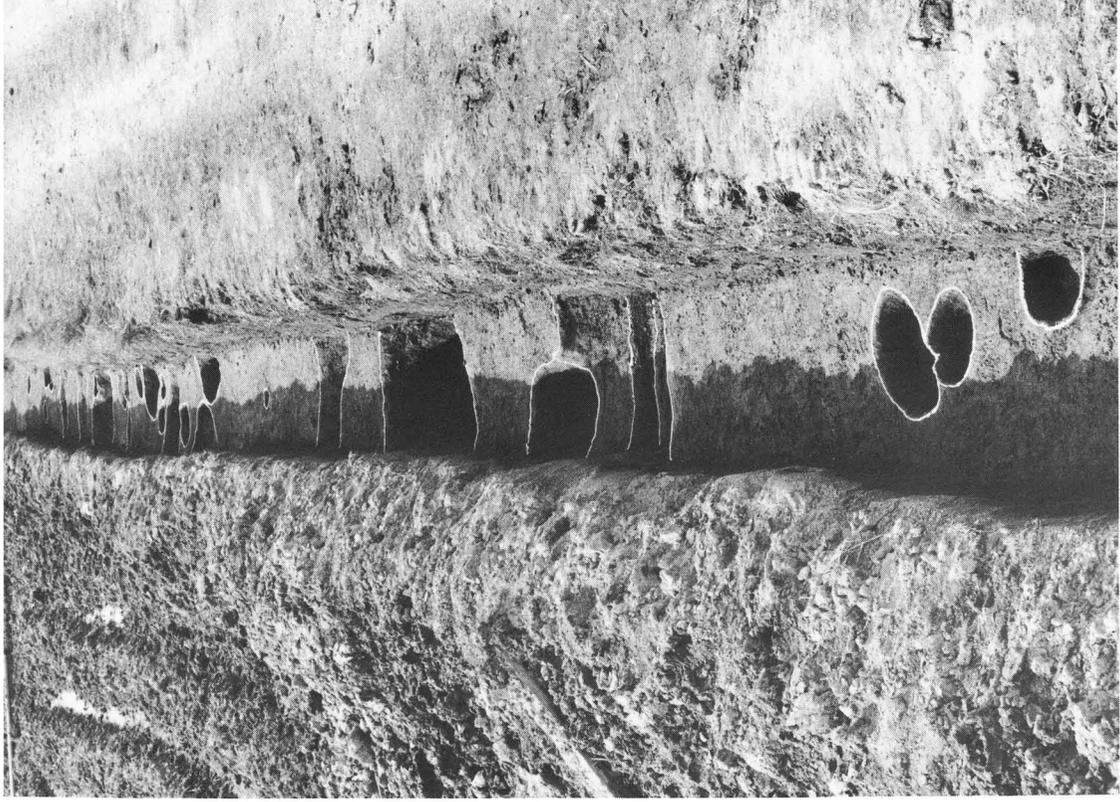
トレンチ4 SD2 出土遺物



トレンチ1 遠景（南東より）



トレンチ1 全景（南西より）

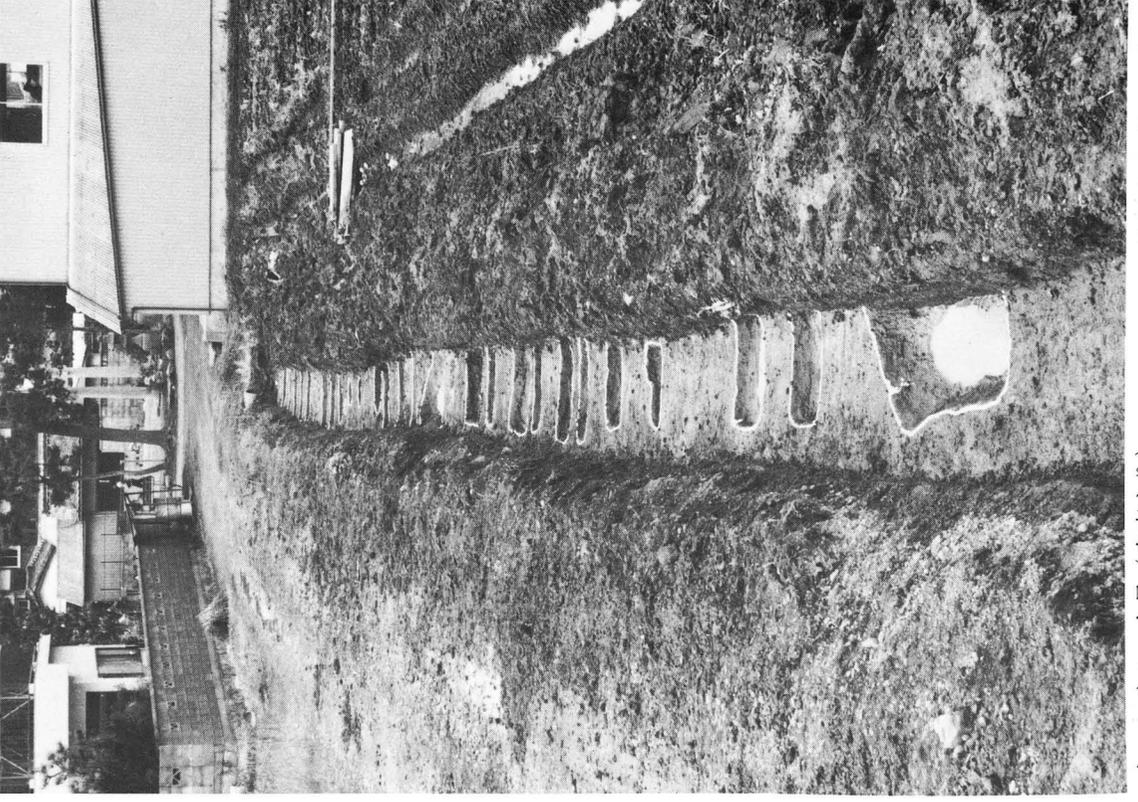


トレンチ1 全景 (北西より)

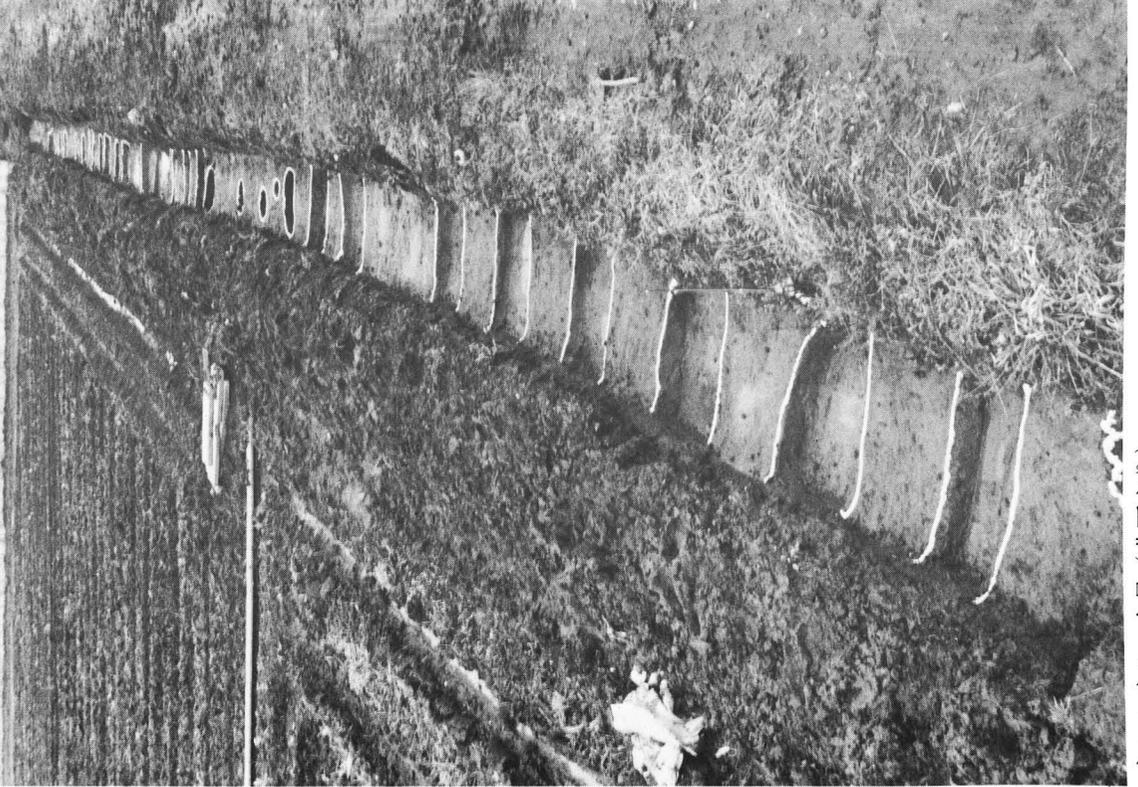


トレンチ1 全景 (南東より)

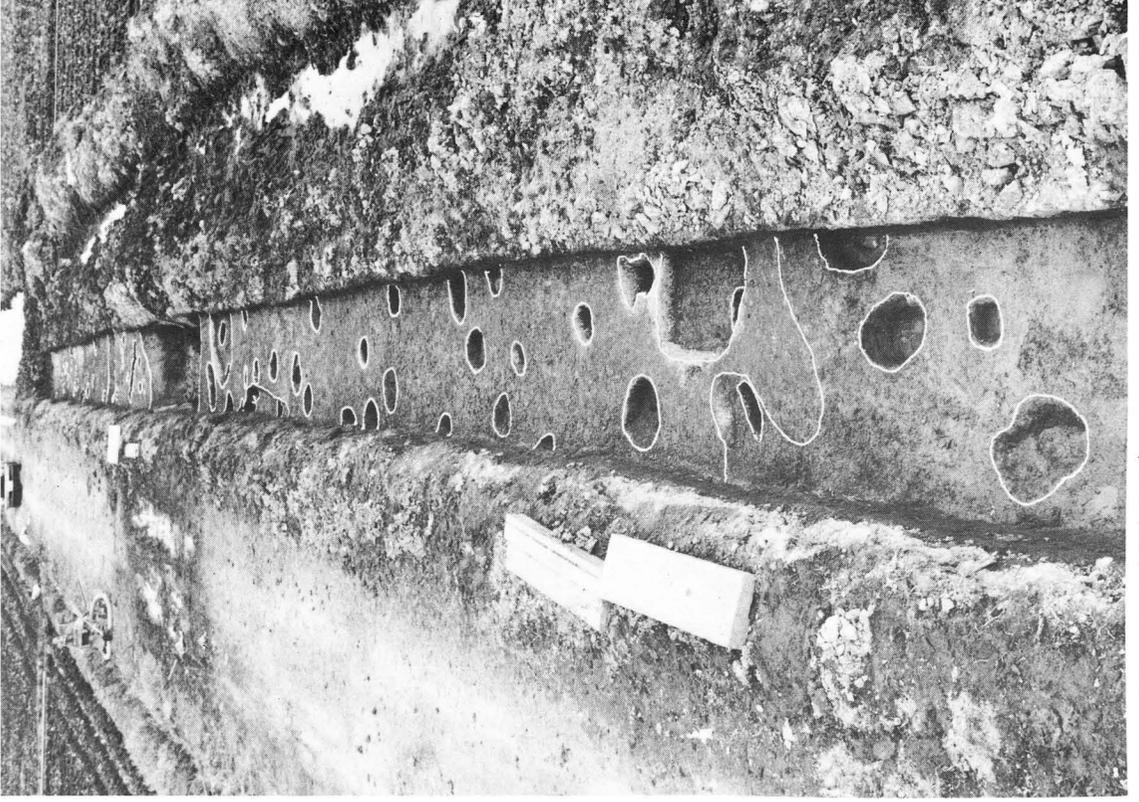
図版7 森川原遺跡



トレンチ2 全景(南東より)



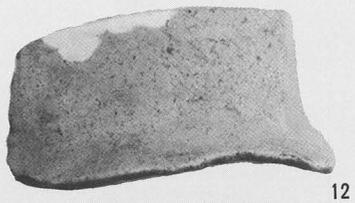
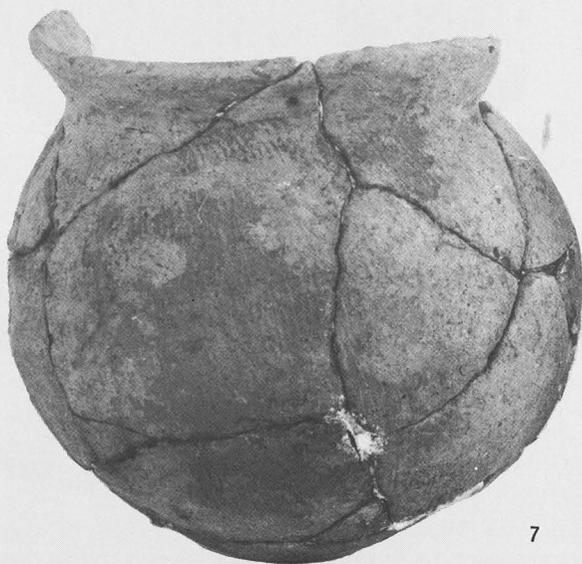
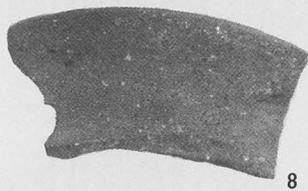
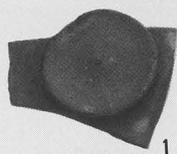
トレンチ2 全景(北西より)

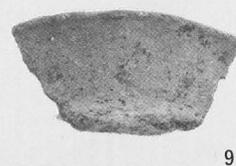


トレンチ3 全景(南東より)



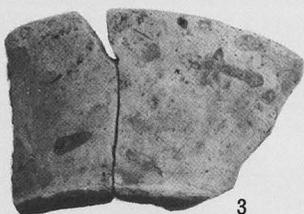
トレンチ3 全景(南東より)



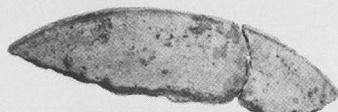




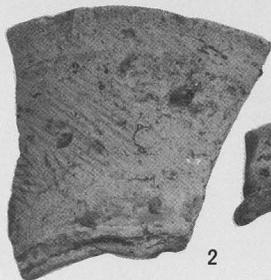
1



3



4



2



8



19



10



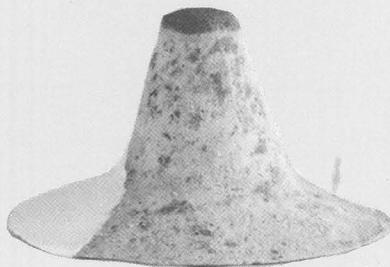
9



11



5



12



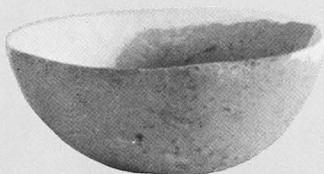
8



13



17



16



11



昭和60年3月

県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ-4

編集 滋賀県教育委員会

発行 滋賀県教育委員会

財団法人 滋賀県文化財保護協会